オリンピック都市サラエボの人々と
ボスニアヘルツェゴビナのスポーツ選手を救おう
『オリンピック・ファミリー義援募金』について

皆様方にも新聞紙上等ですでにご承知のとおり、第14回オリンピック冬季競技会場であったサラエボの街をはじめボスニアヘルツェゴビナの各地は戦火にみまわれ大変な状況になって居ます。我々の仲間であるハンドボール関係の多くの方々も多くの苦労をして居られると思います。

スポーツを愛する仲間として何かお役に立てることは無いかと考えていた矢先に、財団法人日本オリンピック委員会の呼び掛けで義援金の募金活動が行われることになりました。当協会といたしましてもこの運動を全面的に支援して行きたいと思いますので皆様方の全面的なご協力をお願い致します。

オリンピックファミリー義援募金について

財団法人　日本オリンピック委員会
会長　古橋　廣之進

拝啓　益々ご清栄のことと拝察致します。

本会は、オリンピックの理念に基づき、オリンピックムーブメントとオリンピック競技大会への参加を通じて、人類が共に栄え、文化を高め、世界平和の火を永遠に灯し続けることを理想とした活動を続けております。

最近報道される旧ユーゴスラビア情勢は、混迷の度を益々深め、終わりを知らない内戦の状況は、日に日に悲惨さを増しております。戦禍に暮らす人々の恐怖と苦悩は想像を絶するところと思います。

また、1984年平和の祭典である第14回オリンピック冬季競技大会を開催した都市、サラエボも、今は銃撃戦の舞台と化し、かつては、世界の若人がその技と力を競った会場は、見るも無残な姿となっております。

このような状況に対して、本会は、オリンピックムーブメントの立場から、当地の人々、特に平和のシンボルであるオリンピック都市サラエボの人々と、ボスニアヘルツェゴビナのスポーツ選手を救済するために、募金活動を実施することに致しました。

格別なるご高配とご援助を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

義援金の振込先はつぎの通りです。

銀行振込の場合	銀行名	第一勧業銀行渋谷支店
	口座番号	普通No2799568
	口座名義	財団法人日本オリンピック委員会
郵便為替の場合	郵便局名	渋谷神南郵便局
	番号	東京6-711733
	名称	財団法人日本オリンピック委員会

第44回全日本総合選手権大会

男子は日新製鋼が2連覇、女子はオムロンが7年ぶりの優勝

第44回全日本総合ハンドボール選手権大会は、12月10日から13日まで東京体育館にて開催された。

今回は前回の男子・日新製鋼、女子・北国銀行といった新王者を中心とした争いが期待されたが、緒戦で北国銀行が筑波大学に接戦の末敗退する波乱があり、興味を増した。

他にも序盤戦では、男子は本年の東四国国体に向けて強化が進む地元の香川県教員団が本田技研熊本を2点差で破る「殊勲」や、大阪体育大学が三景を堂々の「横綱相撲」でインカレ優勝の貫禄を示したり、中村荷役が日本リーグ前期に次いで本田技研を最後まで苦しめるなど大会を盛り上げた。

女子では最初に書いた北国銀行の敗退の他にも、昨年の全日本実業団選手権で優勝したジャスコが大和銀行に逆転敗退するなど、興味の尽きない争いが続いた。

[女子]

四強に残ったのは、オムロン、日立栃木、大崎電気工業、大和銀行となった。

武津、西村、グデリューらの主力が抜けて若干力が落ちた部分を、中国代表で一昨年夏、広島でのアジア選手権大会でも活躍し、日本でもおなじみの長身プレイヤー張泓と、アジアナンバーワンGKといわれている王涛を補強したオムロンに、昨年の「べにばな国体」で準優勝し、オムロン同様、中国から来日した蒋引娟と陳恵馨を補強し、全日本でも期待されているアタッカーの貴田などの力により、攻撃力を大幅にアップさせた日立が挑戦する形の戦いは、開始直後蒋の連続シュートが決まり、試合の主導権を握るかに思えた日立だが、オムロンは同点に追いつくやサイドプレイヤー中山を中心にしたスピーディな攻撃とGK王の攻守が冴え、日立に連続得点を与えず、前半で14対5と大差がついた。後半に入ると新井の連続ポイントなどで一時は4点差まで迫ったが、試合には影響なく、結局24対17でオムロンが決勝に進出を決めた。

続く大崎電気対大和銀行の試合は、今大会では金、尹の両韓国プレイヤーが抜け、全体的に小粒になった大崎電気。西口、木口、GK上田ら期待の若手大型プレイヤーを揃えた大和銀行と、日本リーグ前期では5位・6位で折り返した両チームだが、高さで勝る大和銀行がどこからでも得点できる豊富な攻撃力でじわじわと大崎を突き放し、後半は一方的なゲームとなった。

こうして7年振りの優勝を目指すオムロンと大会ごとに調子をあげてきた念願の初優勝を目指す大和銀行との決勝は、開始直後大和銀行・伊藤の速攻シュートが決まり、オムロン・橋本のポストシュートで同点にしたが、大和銀行も荒川のポストシュートなどで3連続得点をあげた。このまま波にのるかと思われた大和銀行だったが攻撃面でのミスが続き、オムロンにも連続得点を与えられた。以後取っては取り返すといった状態が続き、オムロンは、前日再三の攻守をみせたGK王のタイミングが合わないため主導権が握れず、見かねたベンチも川島に交代した。12対11の大和銀行1点リードで前半を終了した。

後半もオムロン・川島、大和銀行・増見両GKの好守が続き一進一退の攻防が続いたが、7分過ぎに比嘉のセンターからの連続シュートが決まったオムロンは徐々に大和銀行を突き放し、途中大和銀行は10分以上も得点を決めることができず、最後は26対17でオムロンが4度目の優勝を果たした。

今大会の直前、リトアニアで開催されていた世界選手権に出場していた選手の何人かが元気ないのが気になった。

[男子]

一方男子の四強は、本田技研、大同特殊鋼、湧永製薬、日新製鋼とほぼ順当な結果となった。

GK橋本から山村、平松らにつなげる速攻で活路を見い出したい本田技研と盧、林の韓国パワーを中心にセットからの攻撃に威力を発揮する大同特殊鋼との戦いは、橋本にいつもの攻撃的なキーピングの冴えが見られず、一度もリードすることなく28対21で大同特殊鋼に凱歌が上がった。

2か月ほど前、「べにばな国体」で合同チームを組んで二連覇を果たした湧永製薬と日新製鋼との「12・12決戦」は、広島の地元マスコミも力を入れており、前半開始直後湧永製薬はエース中山の連続シュートなどで飛び出すかに見えたが、今大会の照準をこの試合に合わせていた日新製鋼のどこからでもポイントできる豊富な攻撃力で14対14と追いつき、興味がさらに湧いた。

後半に入ると満を持していた「リリーフエース」のベテラン西山が登場、試合も一進一退の状態が続きついに延長線となった。比較的大味の続いたそれまでの準決勝3試合だっただけに、ことさら館内も湧いた。終了直前湧永製薬はPTを得、ここまで日新製鋼のGK宇田川に本来のらしさが見られなかったが、中山の一投を見事に防ぎ33対32と大熱戦に終止符が打たれた。

結局決勝は、大同特殊鋼と日新製鋼という2年連続の対戦となった。両チームとも開始直後から積極的に前に出るディフェンスでロングシュートを防ごうとした。大同特殊鋼・林、日新製鋼・宇田川両GKの再三の好守もあり、決勝戦らしい見ごたえのある内容が終始続いた。20分過ぎ、日新製鋼は腰痛のため前日の湧永戦にベンチにさえ入らなかった武田を投入するが、大同特殊鋼が若干の主導権を握ったまま4点リードで前半を終了した。ハーフタイムを終え、ベンチに戻った両チームを見ると、

どちらが負けているのかわからない、と思えるほど日新製鋼のムードが明るい。特にムードメーカー野中の掛け声がそれを象徴している。逆にリードしている大同特殊鋼に堅さが見られる。確かに大同特殊鋼は、前日10得点をあげた「オリンピックプレイヤー」林に冴えが見られず、前半はわずか1得点のみと完全に攻撃の幅が狭い。

後半になると準決勝同様日新製鋼は「リリーフエース」が登場した。ここでディフェンスは堀田、武田、野中。オフェンスになると西山、林、木村と3人ずつが交互に登場し、反撃の狼煙をあげた。果たして日新製鋼のペースとなり、計算したかのように西山のシュートで同点にすると一気に突き放す。以後一度同点にされたものの試合終了まで日新製鋼の怒涛の攻撃が続き、二連覇へと突き進んだ。

若手から中堅、ベテランとうまく歯車がからみあった日新製鋼の優勝。チームワークも良く「日新製鋼時代」を築き上げる可能性も秘めている。

最後に蛇足だが、決勝当日はサッカーのトヨタカップ、ラグビーの大学交流試合が周辺で開催されており、千駄ケ谷駅は大変な人込みだった。人気ではこの二競技には及ばないが、いずれ肩を並べる日が来ることを願って止まない。ハンドボールを愛する者として。（臼井）

男子

1回戦

本田技研 23（13－9、10－7）**16 京都教員ク**

〔戦評〕前半開始後少々固さの見られる本田に対し、京都クがうまく攻撃し、一進一退のゲーム。しかし、残り5分、本田のサイドシュートなどで4点リードで前半終了。後半、京都クも必死の追い上げをするが、本田の厚いディフェンスを破ることができなかった。

中村荷役運輸 38（16－12、22－17）**29 早稲田大**

〔戦評〕エース岩本、GK荒木を欠く早稲田大が前半より頑張り、善戦、4点差で折り返す。後半、中村荷役が早稲田大のミスを速攻につなげ加点、早稲田大も平田、力島が打ち返すがおよばなかった。

大崎電気 38（17－8、21－10）**18 氷見クラブ**

〔戦評〕前半20分頃まで氷見クはテクニカルなパスワークからポスト、サイド、ブラインドのミドルなどで大崎の高さのあるディフェンスをよく崩して善戦したが、次第に動き、パスワークなどを読まれ、パスカットからの速攻などで6点連取され、ゲームの流れは一気に大崎に傾き17－8で前半終了。

後半も13分頃までは前半のスタート直後同様互角にわたり合ったが、交替メンバーに余裕があり、スタミナ、スピードに勝る大崎が連続して得点をあげ健闘する氷見クを突き放した。

大同特殊鋼 38（15－5、23－6）**11 法政大**

〔戦評〕先制点は法大があげたものの、大同は着実に速攻で得点をあげ、10点差で前半を終える。

後半に入っても大同の勢いは変わらず、法大のミスから速攻につなげて得点を重ね、法大の若さあるプレーを寄せつけず圧勝した。

湧永製薬 39（21－12、18－16）**28 パームヒルズ**

〔戦評〕パームヒルズが小技で高さのディフェンスを破り、立ち上がり互角に戦うが、10分過ぎより地力に勝る湧永が速攻、セットで次々に加点していく。後半も同じ展開で6点差まで詰め寄るが、15分過ぎにまたも大きいボール回しで湧永が突き放す。ボール操作はパームヒルズも負けていないが、選手層の厚さが勝敗を決めた。

大阪体育大 27（10－6、17－9）**15 三景**

〔戦評〕前半、立ち上がりから両チームともフットワークを十分生かしたディフェンスで10分過ぎまで2対2のロースコア。その後は大体大・山口のミドル、松村のカットインに速攻、三景は斉藤のロング、ポストで1点を争う。後半は大体大はGK四方の好守からスピード豊かな組織的な攻撃で得点を重ね、大差の勝利を飾った。

香川教員 27（14－11、13－14）**25 本田技研熊本**

〔戦評〕前半立ち上がり、本田熊本のポスト、速攻から連続PTを誘い先制するも、香川も河合のカットイン、スカイプレーで同点とし、ゲームは一進一退となる。香川は2回の退場者を出し、本田が4点差をつけるが、香川も粘り強く攻めて22分に同点、27分には相手退場の間に逆に3点差をつけ前半を終了する。後半になっても両チーム確実なプレーが持続せず、両GKのファインプレーもあって接戦となるが前半のリードを守った香川に勝利がとび込む。

日新製鋼 41（15－12、26－9）**21 筑波大**

〔戦評〕前半、昨年チャンピオンの日新はカットイン、ポストプレーなど多彩な攻撃で得点を重ねた。これに対して筑波大も学生らしくすがすがしいプレーで食い下がり、3点差で前半を折り返した。後半に入ると、力の差がはっきり現われ、10分過ぎに10点差が開き、最終的に41対21と大差をつけた。

2回戦

本田技研 23（14－11、9－11）**22 中村荷役運輸**

〔戦評〕前半、両チームともミス

スピードひかえて安全運転

シートベルトを締めましょう

が目立ったが、本田GK橋本の好守で中村荷役に3点の差をつけ折り返した。後半立ち上がり、中村荷役は速攻とスカイプレーで1点差に詰め寄ったが、本田もポスト、ロングで4点連取し、このままのペースで進むかに思われた。しかし、中村は県の活躍でじわじわと追い上げ、再度1点差とし、残り20秒に同点をねらったシュートがはずれタイムアップとなった。

大同特殊鋼 38〔21－10／17－17〕**27 大崎電気**

〔戦評〕立ち上がり5分、大崎はバランスのよい攻撃で4対2とリード。ここで大同GK林が好守を見せ、これをきっかけに大同が4連取して逆転、盧、林のロングがよく決まり、これにポスト、カットインと他のプレーヤーも持ち味を出し、20分過ぎの6連取で19対8と完全にゲームの主導権を握った。後半、ミスが少なくなり、動きの量を増した大崎は必死に追いすがるが、大同の大砲コンビ、林、盧を守ることができず、大同が余裕をもって逃げ切った。

湧永製薬 42〔20－10／22－12〕**22 大阪体育大**

〔戦評〕前半、湧永の玉村、中山のロングシュートで試合リズムをつかみ、20分にはダブルスコアになってしまった。しかし、大体大も泉などの活躍で点差のわりに活気あふれるプレーで善戦する。湧永、大体大の両チームともに速い展開で進み、20対10と湧永の大量リードで折り返す。

後半、地力に勝る湧永は多彩なプレーで加点する。大体大も随所ですばらしいプレーを見せてくれたが及ばなかった。

日新製鋼 39〔18－12／21－8〕**20 香川教員**

〔戦評〕立ち上がり、香川教員が2点連取したが、日新もスピードある攻撃で一進一退の展開となった。しかし、15分過ぎから徐々に日新が引き離し、前半6点リードで折り返した。後半に入っても地力の差を見せ一時日新が退場で4人となり、香川の追い上げのチャンスがあったが生かせず、結局39対20で日新が勝利を収めた。

準決勝

大同特殊鋼 28〔14－9／14－12〕**21 本田技研**

〔戦評〕前半4分過ぎまでは本田GK橋本、大同GK林の両選手がよく守り、得点を許さなかったが、大同・盧、林のロングシュートがおもしろいように決まりだした。本田も平松のミドル、山村のサイドで頑張りを見せたが、大同が5点をリードして前半を終える。後半、本田・平松のミドルで先取点をあげ、本田が攻守のリズムをつかんだが、大同も末岡の頑張りなどで本田をパワーでねじ伏せた。

〔本田〕	得
高木	0
橋本	0
弥吉	1
丹羽	0
藤井	0
立木	2
内藤	3
大塚	0
梅基	2
平松	6
粟屋	1
山村	6
計	21

GK（高木・橋本／秋吉・林）　FP（その他）
〔審・半田・菅野〕

得	〔大同〕
0	秋吉
0	林
2	内藤
0	高村
0	朝生
0	植木
5	盧
2	藤井
10	林
7	末岡
2	佐藤
0	阿萬
28	計

日新製鋼 33〔14－14／13－13／4－3／2－2〕**32 湧永製薬**

〔戦評〕湧永・中山がカットインで先制、その後3点を連取。一方の日新は5分に初得点をあげ徐々に追い上げ、前半終了間際に源内のサイドシュートで同点として前半終了。後半に入り、日新は西山を起用、ミドルシュートなどで残り1分30秒に逆転。しかし、湧永も粘り、残り20秒に中山が同点シュートを決めて延長へ。

延長前半、湧永・中山が先制したが、日新も坂口ですぐに追いつき逆転。後半に入り、湧永は同点となるPTを日新GK宇田川に止められ、日新が1点差で辛くも逃げ切った。

日新製鋼のゴールを守り抜いた宇田川

〔湧永〕	得
河野	0
藤井	0
酒巻	8
河原	1
玉村	4
堀田	3
新井	2
中山	9
荷川取	0
高田	0
田中	5
杉山	0
計	32

GK（河野・藤井／篠原・宇田川）　FP（その他）
〔審・森・川島〕

得	〔日新〕
0	篠原
0	宇田川
4	堀田
6	西山
0	鮎沢
3	甲斐
5	林
1	木村
1	池田
5	源内
4	坂口
4	野中
33	計

技を制す！　スポーツスピリット

日本ハンドボール協会検定工場
国際体操連盟公式競技認定品製造工場
日本体操協会器械器具検定工場

体育施設の総合メーカー
株式会社小川長春館

本社工場／広島県福山市引野町5丁目4番23号　〒721 電話（0849）41-0230㈹
大阪支店／大阪府八尾市若林町1丁目70-1　〒581 電話（0729）48-3580㈹
営業所／東北営業所　名古屋営業所　福岡営業所　沖縄営業所

決勝

日新製鋼 28（9－13、19－11）**24 大同特殊鋼**

〔戦評〕決勝は日新対大同という昨年と同じ顔合せとなった。雪辱に燃える大同は、盧のロング、末岡、佐藤の速攻がよく決まった。日新はやや固さが見られたが、GK宇田川がよくノーマークシュートをブロックし、4点差で前半を終了する。

後半、日新は西山を投入、攻守にリズムを取り戻し、10分過ぎに逆転。その後もGK宇田川がよく守って2年連続優勝を決めた。

〔大同〕

		得
GK	秋吉	0
	林	0
FP	内藤	2
	高村	1
	朝生	0
	植木	0
	盧	7
	藤井	1
	林	2
	末岡	8
	佐藤	3
	阿萬	0
		24

〔審・浜田・小笠原〕

〔日新〕

		得
GK	篠原	0
	宇田川	0
FP	堀田	3
	武田	1
	西山	3
	甲斐	4
	林	3
	木村	4
	池田	0
	源内	3
	坂口	6
	野中	1
		28

優勝手記

日新製鋼監督　泉　喜久男

先に行われました第44回全日本総合選手権大会に於いて、我が日新製鋼チームは昨年の初制覇に続き連覇を果たすことができました。

この栄冠は、昭和35年創部以来、これまでチームを支えて戴いた先輩諸氏をはじめ、関係者の方々のお陰であると厚く感謝しております。

さて、今大会の試合を振り返って見ますと、まず1回戦の筑波大学との試合ですが、結果は別として、主力選手が世界学生選手権で欠いていたといえ、個性溢れる積極プレーで随所々々に好プレーが光り、本当に学生らしいチームとの印象を受けました。

続く2回戦は本田技研熊本を破った香川教員チームと当たりました。流石に教員チームのトップらしく上手いプレーに翻弄される場面もたくさんあり、我チームの選手も参考になったと思います。

準決勝は予想どおり湧永製薬と当たりました。同じ地元のチームで手の内は知り尽くしており、また、共に日本リーグ前期を同率トップで折り返しています。加えて相手チームは1・2回戦にも危なげなく勝ち抜き、勢いに乗っているようでした。

今シーズンは公式戦では負けが先行しており、チーム内でも大会前から「この一戦が今大会の天王山である。」と、言わずとも全員が思っていたようです。

試合は予想どおり一点を争う白熱した展開となりましたが、終盤になって少しずつ流れが変わり、追いついた当チームに勝利の女神が微笑んだと言えましょう。

決勝は、昨年と同じ顔合わせの大同特殊鋼戦となりました。昨シーズンのリーグ後期で黒星を喫して以来の戦いとなり、不安材料は沢山ありましたが、一応の目処であった決勝進出を果たすことができてチームの雰囲気は「勝ち負け云々よりも良い試合をしよう」と、リラックスムードでした。

前半で4点のリードを許しましたが、勝負どころは必ず後半にくると思っていましたので、満を持してベテランを入れ替え、ゲームの主導権を握り、そのまま勢いに乗って勝利することができました。

若手と中堅、ベテランがうまくかみ合った全員で摑んだ勝利であったと思います。

今大会を通じての私なりの勝因を述べてみますと、まず第一に、昨年の大会の優勝がかなりの自信に繋がったと言えます。選手各人が、試合展開を冷静に判断し、勝つ為に自らの役割を実践しようとする術がついて来たのだと思います。「勝つことが薬」正にそのとおりだと思いました。

第二に、チーム内での「信頼」です。昨年はただガムシャラにやって来て気付いたら優勝していたという感じでしたが、今年は、7月の前期リーグ終了から国体を目指す者、若手のJHLカップを目指す者、この大会のみを目指すベテラン、負傷者、全日本の一員と、昨年と違いチーム全体としてまとめるのが難しく、この大会までのコンディションづくりに大変気遣いました。

トレーナー等と相談しながら選手自らの管理に委ねる部分が多くありました。

大会1週間前はムードも今一つでしたが、選手各人が今大会に向け上手く調整してきて本番でピークに持ってきてくれました。

第三は、やはり会社を挙げての全面的支援です。昨年と比べ今年は決して経済情況はよくありませんが、変わらずわがままを聞いて戴いたと思います。現在のチーム環境はこれまでになく充実しております。

「ハンドボール」は大変魅力的なスポーツだと思います。年々技術も向上し、戦法も多種再三です。是非知恵を出し工夫をこらして、是非とも日本のハンドボールが世界をリードして貰いたいと思います。また、その日は決して遠くはないと期待していますし、陰ながら各大会を通じてその手助けが少しでもできれば幸いだと思います。

全日本総合という年末のビッグイベントに優勝でき本当に嬉しく、また、その感激を味わうことができ幸せ者だと思います。

最後に思うままに書きましたが、今大会の開催にあたってご尽力頂いた関係者の方々にお礼申し上げ、優勝報告と致します。

ねばりは頑張り　気力は体力

医薬品
レオピンファイブ

効能・効果
●滋養強壮●虚弱体質
●肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害
・発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給

ワクナガ
湧永製薬株式会社
●札幌011(747)2166●東京03(3293)3351●名古屋052(971)5901
●大阪06(458)8901●広島082(264)4116●福岡092(481)7382

女子

1回戦

シャトレーゼ 31（15－9、16－6）**15 京都教員ク**

〔戦評〕開始直後、シャトレーゼ芦ヶ谷のロングシュートが決まり、一方的な試合展開になるかと思われたが、京都教員クもコンビネーションプレーでよく盛り返し、一時は1点差まで詰め寄る健闘を見せた。後半に入ると、やはり力に勝るシャトレーゼが脚力にものをいわせ勝利をものにした。

日本体育大 36（18－11、18－14）**25 殖産銀行**

〔戦評〕両チームとも緒戦とあって初歩的なミスが目立った。日体大は不安定な殖産銀行の攻防に対し、新井のサイドシュート、桐谷のカットインなどで確実に得点を重ね、18対11とリードして前半を終了。後半に入り、殖産銀行は高橋を中心にゲームを展開するが、日体大も攻撃の手をゆるめずにポストシュート、ロングシュートと多彩な攻撃で得点し、36対25で日体大が勝利を収めた。

日立栃木 30（14－10、16－10）**20 ブラザー工業**

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともミスが目立ち一進一退の攻防であったが、日立が中盤から4連取し、4点差で前半終了。後半に入り、地力に勝る日立が7連取するなど、粘るブラザーを突き放して勝利を収めた。

筑波大 26（15－13、11－11）**24 北国銀行**

〔戦評〕立ち上がりこそ北国のスピードに筑波大は固さが見られたが、徐々に得意のコンビプレーからミドル、速攻、ポストと学生らしい思い切りのよいプレーで北国を圧倒、15対13と2点をリードして前半を折り返す。後半、北国は5連続得点で18対15と逆転するが、筑波大もここからミドルを中心に盛り返し、15分に再逆転、24対21と3点をリード。しかし、北国も3連取で24対24と追いつくが、残り2分、筑波大がミドル2本を決めて北国を破る。

大崎電気 26（13－7、13－15）**22 射水クラブ**

〔戦評〕今年、チームの若返りをめざしメンバーを一新した大崎は野田を軸に足を使ってスピーディなハンドボールをめざしているが、コンビネーションに今ひとつ課題があるといえる。富山のクラブチームとして全日本に初出場してきた射水クラブは、大崎のこの点をついてくらいつき、林のロングや今井のカットインで善戦した。

試合は地力に勝る大崎が結局4点差で射水クラブを突き放したものの、いくつかの反省点を残したといえる。

大和銀行 19（11－13、8－5）**18 武庫川女大**

〔戦評〕日本リーグの大和に対してインカレ3位の武庫川は前半から積極的に攻撃をしかけ、両サイドのシュートが着実に決まり、絶えず2～3点差で試合を進めた。前半22分に大和は竹田のシュートで9対9に追いつかれたが、前半終了直前に久保のPTで2点差をつけて前半を折り返す。後半に入り、大和は武庫川のディフェンスを破れず4点差をつけられたが、武庫川の退場中に一気に点差をつめ、終了直前に逆転した。最後になっての武庫川のシュートミスが勝利を逃した。

2回戦

オムロン 24（12－9、12－4）**13 シャトレーゼ**

〔戦評〕前半は開始早々から両チームとも激しいディフェンスで警告、退場者が続出。オムロンは速攻、セットからのカットインプレーで得点を重ねるのに対し、シャトレーゼは小松のロングとポストへの手渡しプレーで食い下がる。シャトレーゼにとって悔やまれるのは、オムロンが退場者2名を出した時に連続チャージでチャンスをつぶしたことである。後半も最後まで退場者が続く激しい攻防のなか、全員の速攻、ハーフ速攻のスピードに勝るオムロンがセットで攻め切れないシャトレーゼを大差で突き放した。

日立栃木 33（16－15、17－17）**32 日本体育大**

〔戦評〕立ち上がり日体大は3：2：1のディフェンスから速攻を連発しリズムをつかむが、市来を中心とした鋭いフェイントとパスワークで勝負する日立に粘られ、23分についに逆転された。後半に入り、日体大は得意の守ってからの速攻が冴えわたり再度逆転をするものの、退場者を多く出し、最後までリズムに乗り切れずに敗れ去った。

大崎電気 27（13－10、14－9）**19 筑波大**

〔戦評〕立ち上がりは大崎の動きがよく、速攻、サイド、ポストと得意のパターンでペースをつかんだ。一方筑波大は、立ち上がりこそ前日の勢いはなかったものの、稲次、野村のロングシュートをきっかけにペースを取り戻し、一進一退の展開となった。後半に入ると、大崎・目黒のロングシュート、カットインが続けて決まり、筑波大のミスも合わせてあっという間に点差を広げていった。一方筑波大も小谷内のロングシュートなどで反撃に出たが、大崎の勢いを止めることはできなかった。

オムロン・中山美和子のシュート

ジャスコ 22（11－8、11－11）**19 大和銀行**

〔戦評〕試合開始早々から両チームともカットインやポストプレーを主体に攻防を展開し、1点を争う激戦となった。後半に入っても流れは変わらず一進一退の接戦となった。結局、この接戦をものにしたのは大和銀行。ジャスコのミスを確実に速攻で得点しただけ勝利を得たといえる。

準決勝

オムロン 24（14－5、10－12）**17 日立栃木**

〔戦評〕前半立ち上がり、日立が陣の連続ゴールで2対0とするが、

直後に同点にしたオムロンがすばらしいフットワークを使ったディフェンスからリズムをつかみ、各選手が持ち味を十分に発揮し、ミスの目立つ日立を大きくリードする。後半は、日立が新井の活躍で一時5点差まで詰め寄るが、オムロンも張のポスト、中山の速攻で盛り返し、中盤以降は互いに得点を重ね合い、前半のリードを守り抜いたオムロンが見事に決勝戦への切符を手中にした。

〔日立〕	得		〔オム〕	得
坂本	0	GK	川島	0
		GK	王	0
吉鶴	0	FP	上田	0
新井	4	FP	橋本	2
神長	1	FP	中山	11
飯塚	0	FP	斉藤	0
貴田	0	FP	古田	0
市来	2	FP	比嘉	3
堤	1	FP	石村	0
小柏	2	FP	吉田	0
蒋	4	FP	田中	3
陳	3	FP	張	5
	17	〔審・田村・斉藤〕		24

大和銀行34〔21－7、13－10〕**17大崎電気**

〔戦評〕今大会勝ち上がるたびにリズムのあってきた大和が立ち上がりから着実に得点を重ね、前半15分で7対4とリードしたが、15分からの大崎の3連続得点で同点に追いつき会場を沸かしたが、その後は大和の速攻が冴え、一方的な試合展開になってしまった。

〔大崎〕	得		〔大和〕	得
南雲	0	GK	増見	0
宗片	0	GK	上田	0
目黒	0	FP	西口	4
高祖	0	FP	木口	0
杉原	1	FP	吉村	2
前川	2	FP	小池	7
広瀬	0	FP	伊藤	7
酒井	6	FP	日野	3
鷲宮	3	FP	竹田	6
野田	2	FP	植松	0
富田	2	FP	荒川	5
田中	1	FP		
	17	〔審・武智・松原〕		34

決勝

オムロン26〔11－12、15－5〕**17大和銀行**

〔戦評〕前半は前日までの動きが見られないオムロンに対し、のびのびとプレーする大和が4対1とリードする。15分に同点としたオムロンがそのまま逆転するかと思われたが、大和GK増見のたび重なる好守によってリードを奪えないまま1点差で前半を終了。

後半は、開始30秒にPTで同点としたオムロンが本来のリズムを取り戻し、中山の目の覚めるような連続速攻を中心とした展開で、小池の活躍で粘る大和を突き放し、見事な逆転優勝を収めた。

〔大和〕	得		〔オム〕	得
増見	0	GK	川島	0
竹本	0	GK	王	0
山尾	0	FP	上田	1
西口	3	FP	橋本	1
木口	0	FP	中山	5
吉村	0	FP	斉藤	0
小池	5	FP	古田	5
伊藤	2	FP	比嘉	6
日野	0	FP	石村	0
竹田	4	FP	吉田	0
植松	0	FP	田中	2
荒川	3	FP	張	6
	17	〔審・岡本・島田〕		26

優勝手記

オムロン監督　西窪勝広

例年この時期の東京は寒く、どのような対策をすれば良いのか、南国のチームとしては寒さ対策も頭に入れ、そして、新装となった東京体育館メイーンアリーナの中央コートで決勝戦を戦いたいと、夢を大きく持って臨んだ大会でした。

92年度がスタートし、実業団選手権大会2位、日本リーグ前期2位、山形団体3位と、なかなか優勝という言葉を手中にできず、ジレンマに落ち込んだ時期もありましたが、その中でも、山形国体は私自身にとっても実業団チームにとってもショックの大きな大会であり、実業団チームの指導者の一人として、深く反省させられ、自分自身の足元を見直させられた大会でもありました。

また、高松市で行われたインターカレッジ大会を観戦し、一段と私自身の気持ちが大きく揺れ動きました。それは、一戦一戦と観戦するごとに、大学生の個々のレベルの高さ、各チームの細かい試合内容に驚き、自チームに課題を持ち帰り、数多くの対策を練る必要性を感じ、いろいろと情報集収したのも事実です。

そして、全日本女子チームが、世界選手権出場の為に、主力選手が1か月間不在で、大会前日に帰国というスケジュールも、私自身を不安にした材料の一つでもありました。

しかし、大会を終え、一つ、一つ不安材料を振り返ってみますと、いつもの東京の寒さもなく暖房設備の整った体育館での試合で寒さに気をつかう必要性がなかったこと、試合のアップ会場がなく、頭を痛めているチームもあるなかで、すべての試合が第1試合目で、フロアーで練習できた点など、不安材料が、一つ一つ消え、目の前が日々明るくなっていったことを思い出しています。

また、選手たちが自己管理をしっかりしてくれ、出発前の熊本での練習を含め、大会の最終日まで、一人のケガ、病人がでなかったことが一番の勝因につながったと思っています。

試合内容も、チームの課題であったディフェンスからの速攻で得点でき、一試合、一試合、その時の主役が変り、相手チームも的を絞りづらかったのではないかと思います。

そのような試合を毎日展開してくれた選手たちに感謝の気持ちで一杯ですし、実業団チームとして責任を保てた大会でもありました。

連日、また大会前から運営等の準備で遅くまでご苦労された関係者の方々のお力で、新装となった東京体育館で7年ぶりの優勝という思い出をつくれたことに選手と共に喜んでいます。

来年も良い成績が残せるよう、またハンドボールが一日も早くメジャーなスポーツの仲間入りができるように選手と共に頑張ってまいりますので、今後共、ご声援のほどよろしくお願い致します。

世界女子B選手権大会報告

監督　緒方　嗣雄

　大会を前にして1週間の国内合宿、そして最終調整地としてハンガリー、オーストリアでナショナルチームと調整試合にて個人戦術とチーム戦術の確認を行った。初めてナショナル選手としてヨーロッパの大きな選手と試合をすることに戸惑いを見せていたが、4～5試合目は次第に慣れてきて思い切りの良いプレーが見られるようになった。オーストリアでは、フランスチームのビデオを借りて相手チームの情報も入手できた。また、いろいろな国のチーム力も聞くことができ、今までになかった自信をもって大会に臨むことができた。

　11月27日、リトアニア（ビルニュス）に到着。雪がチラついて寒く、前情報通りの寒そうな国であり、我々選手団も落ち込み気味な気持ちとなるが、ホテルは立派で、一応落ち着いて生活できそうである。

　第1戦。相手のイタリアチームの飛行機が到着できず試合時間の大幅変更。我々も初めてのことであり、IHFの意見を了承することにした。オープニングセレモニーの前の予定であったが、オープニングセレモニー、オープンゲーム（リトアニア対フランス）の後となり、試合開始は午後9時30分からとなった。

　オープニングセレモニーは、午後7時から約30分間、20人ぐらいの観衆が集まり、音楽隊のファンファーレに始まり、子どもたちの民族衣裳を着けたダンスがあり、簡素ではあったが、盛り上がったセレモニーであった。その後は、リトアニアの試合。テレビ中継もあり、一方的にフランスを破る。観衆の口笛が終始鳴り続け、審判の笛が聞こえなくなることも度々あり、ミスジャッジがあるとブーイングや床を鳴らすなど、観衆もよくハンドボールを知っており、国全体として盛んなように感じた。

　我々の試合も4時間半遅れでいよいよ試合開始。国外で聞く国歌に緊張し、また、初出場選手の緊張でコチコチのスタートであったが、先取点をとったことにより早く平常心に戻り快調なペースでできた。特に後半は、DFに注意をして速攻を出すことができた為に一方的な試合（31対15）となった。

　第2戦目はリトアニア戦。昨日の試合内容の分析でロングシュートとポストマンの合わせ、サイドマンの鋭い切り込みを注意し、ポイントDFでなくラインDFができるようにスタート。全日本チームのロングシュートをことごとくDFにカットされ、一気に速攻にもっていかれて得点を重ねられた。観衆の口笛等にも戸惑い、一方的なゲームとなって我々のプレーは何も出ずじまいであった。（40対22）。

　第3戦フランス戦。この試合は我々にとって今大会の一番大切な試合である。あまりにもプレッシャーがかかりすぎたのか、また、昨日の試合のショックか、スタートからリズムに乗れず得点がとれない。連続ミスは出る。一番心配していたパッシブプレーを何回となくとられ、自分たちを忘れてしまった前半だった。後半に入り、DFを一―五に変え守りよりも得点をとりにいくことにした。順調に得点を重ね1点差になり、残り時間5秒で速攻でノーマークシュートとなったが、フランスGKの好捕に同点とできず、18対19の1点差負け。非常に残念で、また、大切な試合を落としてしまった。

　第4戦のブルガリア戦。前大会で1点差で敗れ、今大会もあまり調子良くなさそうであり、我々の勝つチャンスのある試合である。2戦続けて前半の調子の悪さがこの試合も同様に思わしくない。DFの悪さが尾を引き、退場者続出。リズムをつかめない状態で終ってしまった。国際試合では、立ち上がりで主導権をとり、前半リードが必勝パターンにもかかわらず調子の出が遅い全日本である。

　第5戦のチェコスロバキア戦。今大会決勝リーグが決定した後の試合で、緊張が切れているようであった。一方我々は、大切な試合も落とし、開き直って試合に臨むことができた。気力の充実と全員のすばらしい集中力を感じた。得点をされてもすぐ取り返し、白熱した試合で9対11で前半を終了。エースをマンツーマンすることによりチェコもリズムをつかめていない状態であり、2点差も苦になっていなかった。後半に入り、一時は4点差と開かれるが、DFでリズムをつかみ、18点目で同点。これより終始リードし、結局23対21で勝利することができた。

　大会事務局より4位という知らせがあったが、IHFの規定により25%ルールにてAグループで5位となり、Bグループ5位の北朝鮮と順位決定戦をすることになった。

　順位決定9・10位戦。ペネベシエス市。ビルニュス市より北へバスで2時間、田舎町である。満員の観客で盛り上がった試合会場であった。9月の極東大会では24対32の8点差負けであり、この大会では必ず勝って借りを返したい大切な試合となった。北朝鮮のエースを完全ワンツーをし優位に展開する前半を2点リード。相手一人退場時のフォーメーションがよく決まった。後半に入り、一人退場者を出した際に5連続得点され、一気に離されかかったがよく辛抱し、同点で迎えた最後の我々の攻撃をインターセプトされ、1点リードを奪われて18対19で終了。またしても北朝鮮に敗れ、それも最後は自滅したような後味の悪い敗戦であった。

　大会全体を通じて大切な試合、ブルガリア戦、フランス戦の2試合を落としたのが残念であるが、この2試合とも前半の大差が原因である。試合立ち上がりの気力の充実と集中力が欠かせないように思う。小さな選手が大きな選手に勝つ為には、相当強い闘争心が必要である。スピードのある展開力さえ良ければ得点は十分得られる。

退場者を出さない防禦力の強化もこれからの課題である。今大会2位のチェコスロバキアを破りながらという残念な結果に終ったことに責任を感じ、深く反省いたしております。

健康管理からメンタル面まで大変お世話になりました高橋先生、ビデオ撮りからカメラマン、また選手を側面から励ましていただきました繁田先生、IHFのコンタクトから帰りの手続き等いろいろな面で力添えいただきました渡辺社長、大変お世話になりました。全日本総合選手権を控えた選手所属チームの関係者の方々に大変なご理解をいただき、この遠征、大会が無事に終わりましたことをお礼申し上げます。

コーチ　穂積　豊彦

昨年の4月、新生全日本チームのコーチをお引き受けして8か月あまりを振り返りながら、この度の世界選手権B大会の報告と反省、そして、今後への課題を思うままに述べたいと思います。

極東大会（9月4日～12日）まで、選考合宿・直前合宿を含め3回、30日弱、新メンバーでコンビプレー・速攻のつなぎ・個人技能などの向上を図るには、あまりにも短い期間であった。

しかし、それだけに選手たちは全体・個別のミーティングを重ね、生活も含め、早く一つのチームらしくなろうとし、大会に向ける意気込み、努力はさすがと感心させられた。

そして、上海での大会。ここでのハプニングは、国際舞台での経験不足からくる緊張、あがり、ビビリに起因すると思われるミスの多発であった。それは、精神的プレッシャーばかりでなく、たとえば、速攻中盤でDFに詰められた状況でのボール処理・行動判断が悪い為に起こるパス・キャッチミスやオーバーステップである。

これらから、危険な（プレッシャー）状況のなかで、あらゆる練習をしていかねばならないと感じた。それと、北朝鮮にみる、ゴールへの攻撃（突進）姿勢を、身体の小さい日本チームは、どうしても身につけなければと痛感した。

そして、世界選手権B大会である。3位までに入り、A大会に出場することが目標である。

極東大会での反省を1つの課題とし、DF・OF面のコンビネーションの再確認と、個人技能の向上に重点をおき、本大会に向け強化を行った。

この間、選手たちは、個々の特徴を知り、気持ちもわかりあえるようになり、選抜ではなく、1つのチームとしてのまとまりを見せてきた。

不安材料といえば、本番でのプレッシャーをどうはねのけ、自分のプレーができるか？である。

大阪での直前合宿を終え、いよいよ出発である。大会前に、ハンガリー・オーストリアで、ヨーロッパスタイル・感覚に慣れるために5ゲームを行った。まず、ハンガリーのナショナルチームと、デブレツェン・ベーケシチャバの2市で対戦。ハンガリーもB大会に出場するとあって、その出来上がり具合はよく、大型でスピードがあり、あたりまえのことではあるが、全員がどのような状況の中でも、動きの中でキャッチングをしているため、攻撃展開がフリースロー以外で止まることがなく、かつ、コンビではないが、得点チャンスを狙っているのが、強いチームと印象づけられた。とくに、サイドプレイヤーのインへのから走りでDFをくずし、ポストへのパスをいかしてくるプレーをみて、私の現役時代のソビエトチームを思い出し、そのかわらぬ有効性を感じずにはおれなかった。

この2試合から、サイドプレイヤーがDFにおしあげられたとき、DFをぬく方法と、から走りでDFを崩して、得点チャンスにつなげるプレーを身につけることができた。

オーストリアナショナルと2試合、ジュニアと1試合。1試合目の1－2－3的DFに対し、攻めることができない。前半8対19、ミス・パスカットから得点され、浮き足立ってしまって、何をしていいのかわからない。足も止まってしまって、攻撃に連続性がない。DF間が広いから、から走りやポストで展開すればいいのだが、時すでにおそく20－36で完敗。いろいろなDFシフトへの対応が遅すぎる。そして、パスアンドランでボールをつなぐことや、走ることでDFが崩せるという意識をもっともっともたせるべきであった。

これらのゲームから、学んだことは、いかなるDF・OFに対しても、即座に対応できる組織力を養成しなくては、いつも数ゲームを消化してからでないと勝つゲームができない。やはり、国際ゲームの不足を感じずにはおれない。見えない敵を想定しての練習も、所詮、想像の域をこえない。現実は違う。

11月27日、リトアニア、ビルニュス空港到着、小雨。寒い到着ロビーは、荷物をとる部屋だけ。出迎えは通訳のエリカ（美人？）と世話役のギンタラス（通称ギンちゃん）。心配したホテルは一流の感じ。部屋も広く、湯も少し濁ってはいるがでる。食事は毎日同じパターンだったが、特に問題はなかった。

28日、対イタリア戦、個人技・スピードもさしてなく楽勝。第2戦、対リトアニア。参った。180cmの壁が立ちはだかる。ロングをうってもDFの手、6mライン

召しませ自然。
シャトレーゼのお菓子は山梨育ち。
日本一の果実郷と極上の酪農地帯です。
澄んだ空気と豊かな自然を、
満載しています。
そして、日本中をおいしい笑顔でみたそうと
シャトレーゼのフレッシュパワー、
ハンドボール部ともども、
21世紀に向って、
さらに大きく飛躍しようとしています。
Châteraisé
株式会社シャトレーゼ
山梨県東八代郡中道町下曽根3440-1 〒400-15
電話(0552)66-5151(大代) FAX(0552)66-5156

にさがって、左右に動くだけのDF、なんとか突破口をひらこうとするが、プレーは読まれ、フェイントも突っ込みもフリースローになるだけ。完敗である。そして、心配されたのは、明日からのチームが同じDFできたらどうしようか、ということである。

やはりフランスは一線DFだ。戦術はさずけたが、それが裏目にでた。

選手がそれを意識しすぎて、身体が動いていない、最悪のすべりだし、前半6対11、ハーフタイムで、さずけた戦術を忘れ、今までどうりの攻撃に戻す。後半、逆転のチャンスはあったが、18対19で敗れる。一夜づけで、どうなるものではない。ただ、選手を惑わしただけであった。大切なゲームだったのに、反省しきりである。

対ブルガリア戦。15対27で完敗。こんなはずじゃなかったのに。やはり昨日の後遺症か？　無責任だが、もう、なにをしたらいいのかわからない。

最終戦、対チェコ。順位は5位と決まったし、昨日までのチェコをみていて、勝てるとは思えない。開き直って思い切りよくやろう。

チェコには油断があったのだろう。それに加えて、日本がよかった。昨日までと同じチームとは思えないほど、伸び伸びと思い切りがよく、リズムにものり、23対21で逆転勝ちをした。感激、感動の勝利だった。

4日、パネジェスへ移動。9・10位決定戦。5日、対北朝鮮戦。極東大会の借りを返したい。しかし、21対22でフランス戦同様1点に泣く結果となった。北朝鮮の再三にわたるGK顔面へのシュートには、大きな憤りと反感を、私だけでなく、関係役員・観客も抱いたに違いない。

目標の3位には、ほどとおい結果となったが、全日程を終了し、12月8日帰国。この遠征と大会に参加して、ヨーロッパのハンドボールを肌で感じることができた。そして何度もいうが、全日本は海外へたくさんでて、たくさんの経験をつまなければいけない。選手はフェイント力・1－1のDF力・瞬発力・判断力そして『何がなんでも、1点をとってやる・守るんだ』という執念を身に付けることを、普段の練習のなかでやらなければいけない。

期間中、選手のコンディションづくりに（心身共に）細心の注意をはらっていただいた。そして公私とも、よく動かれたドクター高橋、緒方監督・伊藤コーチそして、選手たちから、多くのことを教えられたことに、感謝したい。

ドクター 高橋 義雄

はじめに

リトアニアは第2次世界大戦下ドイツナチスのユダヤ人大虐殺時に、日本の杉原大使が、1人のリトアニア人にビザを大使の意志で発給し、その事実を全世界に知らしめ得たこと、大戦後閉鎖的社会にあり日本人を見ることがなかったことなどから、多くのリトアニア人は日本に好意的であった。

一方、選手諸君は直前合宿などで小俣君が左手指捻挫をしていたぐらいで全体としては快調であった。また、食事は日本で自分が常時食しているセブンイレブンの弁当などに比し、栄養も量も充分すぎ、スタッフも選手も喜んでいた。

I、ワールドカップ経過

11月28日（イタリア戦）を前に小俣君は指のテーピングをし、疲労ぎみないしはやや風邪ぎみの村山、松田君は点滴などを行い、万全の体制で試合に臨んだ。予想以上に相手の力は弱く、圧勝で疲労も残らず快調なスタートであった。

11月29日（リトアニア戦）は相手が極めて大きく（人種特異性）、圧倒的な応援もあり、その中で戦い、完敗であった。この日はドーピングがあり、貴田君が選出され行った。充分の尿採取が出来ず、リトアニアの選手も同様であったため、ドーピングドクター、ナースも含め6人で約10本のビールをあけ、一種のパーティーとなり（シャンパンももってきた）、和気あいあいの中で終了した。

11月30日（フランス戦）は勝てると考えていたので、小俣、谷本君らのテーピングなど、各選手に種々の対処を行い万全の体制で臨んだ。結果は1点差で敗れた。充分に勝ち得る相手であり、こうちゃく状態になった時、それに耐え、打ち破る目的意識を主とした精神強化が必要と思われた。この一敗は後の順位決定にひびき、今後の日本女子ハンドの方向性に影響を与えたかもしれない。

12月1日（休養日）は練習と市内観光であった。私は個人的に1880年台に開院されたVilnius大学付属小児病院に行かせてもらい、私の得意な中枢神経障害児の討論となり有意義であった。

12月2日（ブルガリア戦）、西君が出場するため局麻を行った。試合中に谷本、西村君が負傷し、小俣君は自前の負けん気と点がはいらないいらだちから腹痛を生じた。

12月3日（チェコ戦）、選手に自己評価表を記入してもらい、マインドコントロール、イメージトレーニングの助けとした。少しは落ち着いた気持ちでやれたのか、フッきれたのか、2点差でチェコに勝った。その結果、4位でフランスと同率でならび、更に組織委員会の不手際もあり、最終順位決定がなかなかきまらず、夜おそくまでの組織委との交渉など、スタッフの疲れた日であった。

12月4日（移動日ないし休養日）リトアニア側の不手際から、スケジュールが安定せず、集中力がなくなってきた。

12月5日（北朝鮮戦）、村山君は顔面に3度もボールを打ちつけられ、視力が落ち、スポーツといえない腹立たしいゲームであった。極めて危険な行為であり、チームドクターとして試合中止とさせるべきだったと思う。1点差で最後までせったが、何ものこらない、試合であった。この北朝鮮戦のため、イラダチを残して全日程が終了した。

II、遠征中の外傷、疲労、精神状態

今回、外傷、疲労などを認めたのはいずれも活動量の多い、目的意識をより明確にもっていた選手であった。これらは約8名で他の8名とほぼ半々であった。今大会は新生全日本女子第1回目の大きな国際大会として位置づけられるものであり、その中で多くの未完成の選手諸君が、そうでない諸君の影響を（とりわけ北朝鮮の中などで）うけたものと思われ、今後の全日本が期待される。（ちなみにもっとスピードとテクニックと戦略を身につけ復讐戦を誓った。実現するとよいが…。）

III、全日本チームの中におけるチームドクターの位置づけ

スポーツドクター？の目的は①健康の中でスポーツをとらえ、普及及び健康を保持しながらスポーツを行えるように指導する。②ス

ポーツを科学的に分析し、その能力をよりひきだすべく研究をする。③スポーツ障害を適切に加療する、などに別れる。

このようなかで帯同ドクターは、さらに、勝つためのコンディションづくりが重要な仕事？となる。肉体のみならず、精神面の強化も必要で、ドクター自身に人生観がなければできないものと思えた。

このことから、ハンドボールなどの精神面の強化が必要なスポーツはお互いを知るために少なくとも4年間は同じスタッフでいくのが望ましい。諸外国もほぼ同様で、なじみのドクターないしは理学療法士が多い。外傷や疾患は現地での対応も可能で、むしろ帯同スタッフは戦略の分析、選手の精神、肉体面の維持強化が重要な任務であろう。このような流れを選手たちが充分知っていれば、もしドクターがついていかなくても、選手たちは自己管理の大切さをむしろ学ぶであろう……。

おわりに

自分は多くの障害児、その両親を診、彼らが健常人？（健常人でもおかしな人はたくさんいるので？とした。）になるべくための赤裸々な努力、熱意という姿をみてきている。そこには科学ではなく、熱意という非科学を中心として科学を利用するという姿勢がつらぬかれている。全日本女子ハンドボールチームも諸外国の圧倒的強さの打破という非現実的問題？に対し、強い目的意識をもって種々の経験を重ねて現実にしてもらいたい。

それらはすでに始まっており、北朝鮮戦をはじめ結果は不満足であったが、少しでも多くのものを得ようとし、勝つことにつなげようとしている。そして、最後にこのことを通して、私にさらなる熱意と挑戦という感動を与えてくれ、今後の私の生活に影響を与えたことを報告するとともに感謝する。今後選手諸君がさらに人間として成長し、多くの人々に生き方をおしえてくれることを期待する……。1人の人間として、今全日本ハンドボール女子チームは楽しみなチームであった。

（北海道立小児科総合保健センター脳神経外科）

選手
村山みどり

平成4年4月に新しい全日本女子チームが結成され、3回の強化合宿と2回の国際試合を経験してきました。とりわけ、今回リトアニアで行われた世界選手権Bグループは、このチームになって初めてのヨーロッパ勢との対決でした。

直前合宿では、ヨーロッパ勢の高さとパワーに負けないよう真中4人のディフェンスの強化を図ったり、相手の高い壁の間からシュートを狙えるような練習を積んでいきました。しかし、最初に訪れたハンガリーでのナショナルチームとの対戦で、日本で練習してきたことが全く通用しないことがわかりました。高さやパワーは勿論、スピードにおいてもハンガリーナショナルチームの方が格段に上でした。

次に訪れたオーストリアでのナショナルチームとの対戦も、1戦目はハンガリーとは一味違ったサイドやポストとの絡みを使った攻撃にディフェンスが崩され大差で負けてしまいました。しかし、2戦目では、やっと相手のパワーや高さに慣れてきたのか、ディフェンスの動きが非常に良く、キーパーとのコンビも合い、負けはしたものの納得できるゲーム展開ができたように思いました。

大会では、日本はAグループで、イタリア、リトアニア、フランス、ブルガリア、チェコスロバキアと同じ組でした。この中でブルガリアとチェコスロバキアは、3年前の同じくこの大会で、フランスとは平成2年度のジャパンカップで対戦したことがありましたが、メンバーのほとんどが一新されていました。日本としても前回の大会を経験したのは、私と松田さんと比嘉さんの3人だけなので、ほとんど経験がないといっていいでしょう。

試合は、Aグループの方は首都であるビルュニスで行われました。まず11月28日にイタリアと試合をしました。初戦にしては好調な立ち上がりで、日本の持ち味であるスピード溢れるゲーム展開ができ、31対15と快勝することができました。

続く2戦目は地元リトアニアでした。この試合では、まず会場の異様さに飲まれてしまいました。観客たちの手拍子と床を打ち鳴らす足踏みに審判の笛も全く聞こえない状態で、そのうえリトアニアが6mライン上にピタリとへばりついたディフェンスを引いた為、高い壁に攻撃を阻まれてしまい、ミスからの逆速攻で前半終了時点で18対8と大きく引き離されてしまいました。

後半は、少しでも得点しようとマイボールになってからの速い攻撃を試みましたが、リトアニアのスピードの方が一枚も二枚も上手で、結局40対22という大差で試合を終えました。

この試合で得たことは、相手のディフェンスラインが下がった状態で全くピストンをしないディフェンスを引かれると体格で絶対的に劣る日本としては、ロングシュートでは勝負できないし、かといってポストやサイドでの攻撃も相手の腕の中で泳いでいるようなもので容易にシュートまで打たせてもらえないということです。

案の定、3戦目のフランスはり

新しい時代を作ってゆくのは、
新しいひらめき。
そして、ひらめきを実現してくれる
素材が求められます。
常に新しい技術で新しい夢をかなえる
素材をお届けしてきた日新製鋼。
これからも時代に応える
新しい素材をみつめてゆきます。

明日の素材をみつめる
日新製鋼
東京都千代田区丸の内3-4-1
（新国際ビル）☎03-3126-5511 〒100

トアニアと同様なディフェンスを引いた為、前半は全く攻めきれず11対6で折り返しました。下がったディフェンスを予想した攻撃も付け焼き刃では通用する訳もなく、相手を波に乗せるだけでした。後半は日本らしい攻撃もできましたが、前半の5点差が尾を引き19対18と悔しい結果に終ってしまいました。4戦目のブルガリアもフランス戦と同様なゲーム展開に終り、大差で敗れてしまいました。予選リーグ最後のチェコスロバキア戦には勝ったものの、Aグループの5位に終り、順位決定戦で北朝鮮とあたることになりました。

北朝鮮には9月に行われた極東大会で32得点も取られ、日本のディフェンスの甘さを考えさせられました。その点を考え、エースのホ・ミョンスクにスタートからマンツーマンディフェンスをかけるという作戦で臨みました。前半は、両者共に堅さが見られましたが、北朝鮮側のミスが目立ち、日本が2点先行して後半に入りました。後半は、日本がまだ堅さがとれず、攻撃でのミスが目立つのに対して北朝鮮は、ディフェンスで徐々に調子を取り戻していきました。15対12から逆速攻などで一挙に連続6得点を許してしまい、15対18と北朝鮮に3点のリードを奪われてしまいました。その後も要所要所で日本のミスが目立ち、結局22対21と後半は7点しかとれないという惨めな結果で終わりました。試合前のミーティングで、さんざん北朝鮮の凄じい気迫や、ボールに対する執着心に負けないようにしようと話し合ったことが試合に全く生かされていませんでした。

今大会では、ヨーロッパの国々とどのような戦い方をしなければならないかという点でおおいに考えさせられました。身体的な面で不利な上に、スピードでも勝つことができず、ディフェンスも相手のパワーに押し切られてしまいます。日本は韓国のように鋭いフェイントやパスワークがあるわけでもないし、中国のように高さやパワーで互角に戦えるわけでもありません。このような現状で勝機を見い出すとしたら、とにかく前半は何としてでも食らいついていき、攻撃面ではボールを長くキープし、ミスを最少限にとどめる努力をすれば、チェコスロバキア戦のように良い結果も生みだせると思います。

ただ、私たちの当面の目標は、次のアジア選手権であり、2年後のアジア大会だということです。韓国、中国、北朝鮮に対してどういう戦い方をしていかなければならないかを考えることが最優先でしょう。

これからは、限られた強化合宿の中でいかにして攻撃やディフェンスのコンビネーションをより確実なものにしていくか、精神的な面をどのようにして鍛えていくかが、私たちの最大の課題であると思います。

選手 山岸理津子

私も含め全日本初参加者が多かったこともあり、世界Bグループ選手権のステップとして臨んだ極東大会の結果もいま一つ。その後の合宿もままならない状態で臨んだ今大会、不安がなかったわけではありませんでした。

各チームでは別とし、全日本チームとしてヨーロッパ勢と対戦するのは初めてという人が多い中、大型チームでない私たちとヨーロッパ勢との体格の差は歴然としています。いったいどうしたら守れるのか、攻められるのか、考えていてもらちがあきません。

大会直前の遠征でハンガリー、オーストリアのナショナルチームと試合することができ、日本で今まで練習して来た中で、実戦で通用する作戦、しない作戦が見えて来たとともに新たにいくつかの作戦を加えることができました。

こうして、開催地・リトアニアに入りました。ホテルの状態、食料、気候、どれも前もって聞いていたものよりは良く、一安心といったところでした。

午前中、1時間くらいずつ各チームに練習時間が与えられ、調整することもできました。体育館の方は、2m四方の正方形の板をいくつもつなぎ合わせペンキを塗ったもので、あまり良い状態ではありませんでしたが、下が空洞になっていたせいか、ボールの跳ね具合、足に対しての衝撃、ストップは、さほど悪いというほどではありませんでした。

大会では、二つのグループに分かれ、日本はイタリア、リトアニア、フランス、ブルガリア、チェコスロバキアと同じ組でした。

第1戦目は、対イタリア。初戦ということもあり多少の緊張はあったものの、本来どうりの自分たちのプレーである〝スピード〟をもったプレーができ、快勝することができました。

リトアニア戦では、地元ということもあり会場の観客も敵に回しての試合でした。

ベンチの指示はもちろん、選手の間でも声が聞こえない状態の中で6mライン上に壁のようにディフェンスを引かれ、ロングを打てばカットされ逆速攻、ミスも出てしまい前後半を通し大差で負けてしまいました。

フランス戦では、前の日リトアニアに引かれたディフェンスのことを考え、いくつか作戦を考えたのですが、それが逆に形にこだわりすぎという消極的な結果を招いてしまい、前半、思わぬ大差で負けていましたが、後半に入り、フリーな攻撃で攻め、2点差までつ

大崎電気工業株式会社
東京都品川区東五反田2-2-7 〒141
TEL.03(3443)7171 FAX.03(3447)5844

め寄ることができました。この後、この1点差が大きく尾を引く結果となり、1点がどれだけ重いか思いしらされました。

ブルガリア戦も他と同様、下がったディフェンスを引かれ、攻撃されては、前日にチェックしていたはずのプレーで得点されるという結果になってしまいました。

予選最終戦、チェコスロバキアとでしたが、気持ち的に楽だったせいもあり、勝利でしめくくることができましたが、フランスとの得失点差で5位となりました。

9・10位の順位決定戦では、北朝鮮とでした。北朝鮮には、極東大会で負けていたためなんとしても勝つ、そういう気持ちで臨んだ試合でした。前半、GK村山の好守もあり、2点リードしていましたが、後半に入り、要所でミスが出始め、そのミスを逆速攻につながれてしまいました。

その後、盛り返し1点差まで詰めましたが、結局負けてしまいました。

今大会、1点差で泣く試合が2試合もありましたが、どちらの試合も要所でのミスが目立ち、どこかで一本なかったら、もしくは、1点取っていればというものがありました。

フランス戦の前半、北朝鮮の後半はじめのように、消極的になった時ほどミスは出るものです。今後、一人一人がいかに強気で攻撃できるかというのも一つの課題だと思うとともに、体格的に差のある者に対しどう攻めるか、守るかというのも問題になってくると思います。

次のアジア大会に向け、スピードのある、韓国、北朝鮮、体格の大きい中国、この国にどう勝負するか。この大会で見えたいくつかの問題点であるパワー的なもの、精神的なものをいかに克服できるかが、今後の課題になると思います。

選手　土師　基子

全日本初参加ということで、多少不安な点はありましたが、ヨーロッパなどの大きな外国人相手に試合をすることは初めてではないので、それなりの対処方法はわかっているつもりでした。

ハンガリーでの初戦の練習ゲームでは、私たちナショナルチームが出さなければいけない速攻を逆にやられてしまい、戸惑いや不安などでたくさんの反省ばかりが出てしまいました。

ただ相手が大きいからとか、パワーが違いすぎるからとかで負けたとは思っていませんが、やはりまだ怖さがあって、自分の持ち味であるスピードプレーやフェイントが出し切れなかったことがとても残念でした。

オーストリアでの練習ゲームは、ハンガリーの時よりもディフェンスも良く、攻撃もスピードにのってそれなりに得点し、いいゲームができたと思いますが、ミスの多さはあまり変わらないような気がしました。

現地に来てからの反省点が多すぎて、新しく考えたフォーメーションやディフェンス方法、メンバーの変化などで戸惑う場面がいくつかありましたが、イメージトレーニングや話し合いで気持ちを高めていきました。

試合前のアップ時間も短時間なので、自分自身で身体を動かせる状態にもっていくことも結構難しかったです。

リトアニアに現地入りし、本大会最初の試合（イタリア戦）ということでみんな気合いも入り、危なげなく全日本の圧勝に終わりました。

次からの試合もその調子でスムーズに展開できれば問題ないのですが、やはり世界の壁は高く厚いもので、簡単に勝たせてくれませんでした。

結局Aグループ5位という結果に終わり、目標であった決勝リーグには出られませんでしたが、本大会を終えいろいろな反省点、これからの課題を教えてくれたと思います。

6試合を終えて、全体を通して言えることは、前半の得点力が低すぎると思いました。勝てると思っていたフランスに前半6点しか取れず、後半の追い上げもいま一歩及ばず1点差で負けてしまいました。他の試合を振り返っても、前半に点差が開きすぎて、後半、苦しいゲーム展開になっていました。

セットでの攻撃力が弱いため、速攻をつぶされるとミスが目立ち逆速攻にもっていかれるケースが多すぎたと思います。

スピードは他国と比べてもさほど劣ってはいませんでしたが、やはり高さとパワーの違いについていけなかったように思いました。

ディフェンス練習を強化していたけど、つめのあまさ、ポストの置き方がまだまだ不十分だったと思います。ディフェンスが良ければ得点に結びついていたことは事実で、予選リーグ最終戦のチェコ戦では、得点は低かったものの、粘り強い守りで相手の攻撃を封じ、2点差で勝ちました。〝やればできる〟と自信はつきましたが、最初の試合からこの粘りを出せなかったことが一番残念です。

日本では通用していたカットインプレーやフェイントも全くといっていいほど効かず、自分自身落ち込んだ面もありましたが、これからの課題として頑張って行きたいと思います。

結果的には10位に終わりましたが、いい体験ができて良かったと思いました。

Power & Intelligenceで
ゆたかな活力あふれる
北陸を

北陸電力

オランダ・ハーレム・ハンドボール・ウィークに参加して

団長　須藤健児

略称名＝オランダ・カップと言い、各国のナショナル・クラスのチームが参加する。

参加国＝日本、オランダ、ベルギー、スイス、オーストリア、ノルウェーの6か国。

期間＝11月19日、夜、品川プリンスホテルに全員集合。12月1日、10時、成田空港で全員けがなく無事解散する。

人員＝団長1、監督1、コーチ2、ただし独国留学中の田口コーチは現地で合流。医師1、計5名のスタッフ。選手は16名。

宿舎＝ハーレム市郊外、モーテル・アーカスロット。広大な敷地、自然の美しい郊外の村といった感じで、畑や牧場や用水路に囲まれている。モーテルと言っても、木調とレンガ作りの重厚な感じのする木造三階建てのホテルであり、暖房もよくきいた快適な住居である。広さも日本と比べてかなり広い。

試合場、練習場＝いずれも似たり寄ったりの体育館で大体育館ではなく、観客との距離も接近していて、親しみやすい雰囲気をかもし出している。天井もそんなに高くなく、暖房も適度にきいており快適である。

対戦結果は左の通りである。

11月23日、21時30分、デン・ヘルダー町にて☆練習試合
　対オランダ　17－20×
11月25日、18時30分、
　対ノルウェー　18－26×
11月26日、18時30分、
　対スイス　26－29×
11月27日、21時30分、
　対オーストリア　22－27×
11月28日、20時、
　対オランダ　17－15○
11月29日、13時30分、
　対ベルギー　19－19△

1勝1分三敗、参加6か国中4位である。

試合感想＝試合運び、戦法戦略、戦績結果等に関しては監督、コーチの領域であるので論評は差し控えたい。しかし、外国ナショナルクラスの選手は、2m、1・9mの身長で、肩巾や胸巾の厚い大型選手を相手に、防禦面では体を張って、とめる、当たる、激しさ、逞しさがないとけがをさせられる。攻撃面では素早い腕の振り、しなる、たわむような腕の振りのシュートが要求される。高い打点でのシュート、パワーだけのシュートではもたないのではないか。そんな状況のなかで、今大会のMVP賞を獲得したのは日本の末岡政広選手で、彼は1・76m、74kgである。

人物寸評＝蒲生監督・ハンドボールに対する哲学、理念を持ち、寸分の隙にも厳しい注文を付ける。強烈なリーダーシップに富む逸材である。関コーチ・・万事控え目で地味な存在であるが、実によく監督を支え王佐之才に富む。選手を見詰める観察眼は鋭く、その一言に重味がある。田口コーチ・・ハンドボールの祖国と言われる独国に留学するだけあってなかなかの理論家。時折り口から出る独国語にもその片鱗が伺われる。大場医師・・膝関節等、下肢の関節を専門とする整形外科医である。ドクターが遠征に付添ってくれるだけで選手はどれだけ安心感を持っただろうか。選手の兄貴分的存在として彼らの相談に快く応じていたのが印象的である。

大会運営＝開閉会式、監督主将会議、レセプション等々、一口で言えば質素で、簡単で実に素早く1時間以内で終了する。日本も見習う点があるように思う。しかし、その中にあって、日本のハンドボールを参加国に強く印象づけたことは見逃せない事実である。

生活面＝添乗員も日本語通訳もいない中で蒲生監督の国際経験豊かな中で、我々一行は何ひとつ不自由なく生活できた。試合の合い間に、半日、アムステルダム首都を見学できたのも、スーパーマーケットに生活品を買いに行けたのも監督、コーチの配慮である。御陰で市民生活の一端を垣間見ることができた。

最後＝出発の朝は、中沢専務理事の激励と見送りを受け、帰国の朝は、植村常務理事の慰労と出迎えを受け、協会あげての支援に深く感謝申し上げて、この報告を擱筆する。選手諸君！帰途、飛行機での課題作文御苦労様。

監督　蒲生晴明

1、はじめに

今回の遠征に出発するにあたり、日本協会関係の皆様・各選手所属の関係の方々には、大変なご支援・ご協力・ご厚情をいただきまして、誠にありがとうございました。

選手達も遠征の回を重ねるごとに成果を出し、その成長は顕著であります。毎回のことではありますが、以下簡単に遠征の報告をいたします。

2、今回の目的および現状等について

HAARLEMESE HANDBALL WEEKは、毎年11月に実施され、今年で回を重ねること8回になり、ヨーロッパにおいても、注目されるトーナメントになっている。日本としては、3年前に初参加したが、出場各国に対して内容のあるゲームを展開し善戦した経験があった。また、本年3月には世界選手権大会Bグループの直前トレーニングとしてオランダナショナルチームと3ゲームをさせていただいたが、全くと言っていいほど歯が立たず大敗した。けれども、そう言った意味では、オランダにはいろいろと世話になっており、今回も前回・前々回同様歓迎を受け、満足のいく環境でゲームができた。いろいろな意味で、オランダには感謝するところである。

ところで、我が全日本チームは、この歯が立たなかったオランダを当面のターゲットにトレーニングしてきたわけだが、今回そのチャンスがきたことは大変に嬉しく、また、チームの成長を計るうえで大変に意味のある大会であった。

また、今回は時差対策として大会の5日前に入国し、トレーニングを実施してからゲームに持っていくことをテスト的に実施した。いずれにしても、大会に参加して、勝負をすることが今回の目的であった。

3、ゲーム結果

別表参照

4、成果・内容等について

(1)時差対策について

海外遠征の場合、通常は現地到着の次の日にゲームが組まれていることが多く、結果として、満足が行かないまま日程が過ぎることがあった。今回はゲーム5日前に現地に入り、短時間ハードトレー

ニングと充分な休養を取ることを実施した。その結果、時差によるコンディション調整は、良好でまずまずであった。ゲームについても、時差からの影響と考えられるものもなく、体調を崩すものはなかった。

(2)成果・内容・課題について

オランダに到着後4日目にオランダナショナルチームとトレーニングゲームを実施したが、前半の立上がりが悪く、6－13と思わぬアヘッドをしてしまった。これについては、3月の後遺症が残っていたように思われる。後半に入り、選手達がペースをつかみ、そして、後半25分には、途中8点差まで開かれていたこの差を1点差まで追い上げ勝負するところまできた。しかし、途中のアヘッドが大きすぎ勝てなかった。

ハーレムスハンドボールウィークは、オランダに到着後6日目に始まったが、この頃には、チームとして充分に対戦できる準備が整っていた。初戦はノルウェーであったが、後半途中に2点差まで追い上げて、勝つチャンスは充分あったが、勝ち越すためのエネルギーが欠けていた。スイス・オーストリアについても同じケースで、前半スタートのゲーム運びについて、大きな課題が出てきた。けれども、後半になって、あそこまで追い上げができるようになったことは、評価していいと思う。今後は、試合前の準備と、試合を通してムラをなくしていくことが大切であると考える。

4日目にオランダと対戦。トレーニングゲームでは、惜敗をしているので、選手達も気合いの入っている様子が良くわかった。ゲームがはじまり、ディフェンスからの速攻が出てスタートからリード。途中連続得点され、前半は2点差でリードを許した。後半に入り、4連続得点で2点のリードをしたが、この間GK橋本の堅守とディフェンスの頑張りでオランダを15分間無得点に押さえた。勝負所でのこのディフェンスが成功し、そのままオランダに勝つことができた。次の日のゲームは、ベルギーであったが、着実に成長をしているチームで、各国とも敗れてはいるものの良い内容であった。日本としても、侮れない相手である。結果として、引分けになったわけだが、後半13－18から追い上げての引分けであり、内容的には、満足のいくものではなかった。

今回は、連日ゲームがあり、精神的なスタミナと肉体的なスタミナの両方をコントロールしなければならなかったが、両面について、まだまだ不十分であることが判明した。

逆に言えることは、スタミナの面を強化することにより、充分勝負できることが可能になると言うことで、今後各選手の日々の鍛練・努力に期待したい。

大会の最終日に、表彰式があったが、最優秀選手に末岡政広選手が選ばれた。世界でもAランクのチームになる国と対戦し、選ばれたことは、本人にとっても日本にとっても感激である。大会期間中の末岡政広選手は、縦横無尽にプレーをし、そのスピード&テクニックは、各国の監督・大会関係者に驚異を与えた。ましてや、彼等の投票で選ばれたことが大変嬉しい。

5、おわりに

今回は、高校体育連盟の須藤部長先生に団長としていっていただき、「ゲームに臨む心得や全日本選手としていかにあるべきか」などご教授を受けて、我々も身に染みる思いでした。我々には、常に勝つことが求められ、「そのためにはいろいろな面から、特に内面からの強化が大切である」と言うことを、先生から教えていただきました。

このことを今後の強化に生かして行き、日本のハンドボールファンに愛され、可愛がられる選手、強く逞しい選手を育てていくことが最終的には、アジアNo.1になる道だと確認しました。

本年度は93年3月まで全日本活動は、一休みになりますが、各選手の今後の精進を期待し、また、関係方々の益々のご支援ご教授をお願いして、報告とします。

HAARLEMES HANDBALL WEEK 1992 RESULT　　オランダ遠征成績

	第1試合	第2試合	第3試合
11／25	JPN18 [9－14 / 9－12] 26NOR	HOL19 [9－17 / 10－8] 25AUT	BEL21 [9－14 / 12－14] 28SUI
11／26	JPN26 [13－15 / 13－14] 29SUI	HOL21 [6－9 / 15－11] 20BEL	AUT24 [11－9 / 13－6] 15NOR
11／27	JPN22 [12－19 / 10－8] 27AUT	BEL17 [6－13 / 11－8] 21NOR	HOL23 [12－12 / 11－15] 27SUI
11／28	JPN17 [9－10 / 8－5] 15HOL	AUT22 [11－12 / 11－7] 19BEL	NOR27 [13－8 / 14－8] 16SUI
11／29	JPN19 [8－10 / 11－9] 19BEL	SUI21 [10－8 / 11－12] 20AUT	HOL20 [8－11 / 12－11] 22NOR

勝敗表

HAARLEMES HANDBALL WEEK 1992 最優秀選手 末岡政広

	AUT	NOR	SUI	JPN	HOL	BEL	勝敗	POINT	得失点差		順位
AUTオーストリア		○24－15	●20－21	○27－22	○25－19	○22－19	4勝1敗	8	＋22	118－96	1
NORノルウェー	●15－24		○27－16	○26－18	○22－20	○21－17	4勝1敗	8	＋16	111－95	2
SUIスイス	○21－20	●16－27		○29－26	○27－23	○28－21	4勝1敗	8	＋4	121－117	3
JPN日本	●22－27	●18－26	●26－29		○17－15	△19－19	1勝3敗1分	3	－14	102－116	4
HOLオランダ	●19－25	●20－22	●23－27	●15－17		○21－20	1勝4敗	2	－13	98－111	5
BELベルギー	●19－22	●17－21	●21－28	△19－19	●20－21		3敗1分	1	－15	96－111	6

平成4年度高松宮杯男子35回・女子28回全日本学生選手権大会

大体大（男子）、日体大（女子）に栄冠

全日本学生ハンドボール選手権大会は11月10日より15日までの6日間にわたり松山市総合コミュニティセンター及び愛媛県総合運動公園体育館において、男子32大学・女子16大学が参加し、予選トーナメント・準決勝リーグ・順位決定戦方式で行われ、男子は大体大が5年振り4度目、女子は日体大が2年振り17回目のそれぞれ優勝を飾った。

予選トーナメントは、組み合わせの結果、男女共にシード校が順当に勝ち上がるのではないかとの下馬評であったが、男子で、第2シードの中部大と第4シードの中大が敗退という波乱があった。女子は順当であった。

中部大は、法大に先行しながら、後半に入りシュートミスが目立ち、逆転負けを喫した。大教大は鈴村（桜台）の活躍で中大を破った勢いで名城大も連破して勝ち上がった。

インカレ四連覇をかけた日体大は、富本・小澤（共に世界学生代表・全日本）を擁して福岡大と対戦したが、秋季リーグ後半からの不振から立ち直れずに敗退した。

この他、早大に善戦した函館大、高橋（川口北）の好リードで國士大を追いつめた日大、筑波大に今一歩の処で交わされた桃山学大などの健闘が目についた。

準決勝リーグ初日の早大―大経大戦は、大教大が、谷村（此花）・新人田中（育英）で開始10分には7―3とリードしたが、17分に平田（熊本市商）のロングで追いついた早大は、後半に入って岩本（熊本市商・世界学生代表・全日本）の5連続得点などで一気に突き放し、最後は延命（早大学院）が決めて楽勝。

法大―国士大戦は、国士大が田中（横浜商工）の巧技で先手を取ったが、法大が前半の終了間際に逆転、その後も加点し9点差まで行ったが、19分から無得点が続き、その間木浪（青森商・世界学生代表）・小俣（上溝南）の4連続で追い上げる國士大を破った。

筑波大―福岡大戦は、福岡大が清水亮（久工大附）、米倉（瓊浦）の活躍で前半を同点で折り返したが、後半に入ると、筑波大が鎌田（天草・世界学生代表）・益崎（熊本市商）などの連続得点で優位に立ち、振りきった。

2日目の早大―国士大戦は、早大が開始早々に、平田・五島（明星）・岩本で連取し、12分には8―2とリードした。しかし19分過ぎから攻守両面で凡ミスが目立ち、その間に、荻本（大分電波）の速攻、小俣の回り込みで国士大に追い上げられた。後半は1点を争う好ゲームとなり、このままでは引き分けかと思われた終了間際のセット崩れから、市原（桃山学院）がサイドから決めて辛勝。

3日目の早大―法大戦は、法大が春秋リーグで早大に勝っており、20年ぶりに決勝戦へコマを進めるか注目されたが、早大は堅実なプレーで法大を下して、決勝戦へ進出した。

筑波大―大体大戦は、筑波大が新人広政（下松工・世界学生代表）の右45度のミドルで先制したが、大体大もすぐ村上（北陽）で返し、その後も1点ずつ交互に取り合う展開で進み、前半は筑波大が12―11の1点リードで終了した。

後半に入り筑波大が鎌田のミドル、藤本（東邦）のカットインで15分には19―15とリードして、ペースに乗ったと思われたが、16分、21分、23分と退場者が続き、この間に大体大が松原（育英・世界学生代表）、山内（岡崎城西）、森本（北陽・世界学生代表）などで多彩に攻め逆転、さらに山内のミドル、松村（桂）の速攻で突き放して、決勝戦進出を決めた。なお、筑波大にとっては勝負どころも合わせ合計10名の退場者が出たことは不運というしかなかった。

この結果、3位決定戦は法大―筑波大、優勝決定戦は早大―大体大の組み合わせとなった。

3位決定戦は、筑波大が開始34秒に広政が決めてから9連続得点するなどして、その後も変わらぬ攻めで大勝した。

決勝戦は、大体大が森本のミドルで先行しすぐ2―0としたが、早大も五島・岩本で返して同点。その後も一進一退で経過、10分30秒から平田の3連続のロングと江口（久工大附）のサイド上りのシュートで3点差としたが、大体大も片山（桂）、松村などの速攻で追いつくなど前半はタイで終了。

後半の出だしは早大ペースで進み8分には18―15になったが、この直後に退場が出たことと岩本のロング、五島のミドル、中野のポストの各シュートを大体大GK四方（北陽）が好捕して早大を10分

くらし、ひろげるジャスコのカード

会員募集中

ファッションから食品まで
サインひとつでお買物。
ご入会手続きも簡単です。
お気軽にお申込みください。

JUSCO CARD

お支払いもいろいろ
●月々のお支払いがラクな
リボルビング払い
●手数料なしのおトクな
一回払い
●お求めはいま、お支払いは
ボーナス一括払い

お申し込み、お問い合せは、ジャスコ各店サービスカウンター又は、販売員におたずねください。

間無得点に抑える間に、森本の3点を含め5連続得点で逆転してそのままの勢いを守り優勝した。

スピードのある多彩で何処からでも点の取れる大体大と、高さとパワフルな早大と持ち味を出し合って好ゲームを展開したが、サイド攻撃の幅の有無が明暗を分けたと言える。

女子は、予選トーナメントで、東日本学生1位の東女体大と関西リーグで武庫川女大に1点差で敗れた大体大戦が注目を集めたが、飯田（名短大附）の好リードで東女体大が、前半で勝負を決め、他のシード校と共に順当に勝ち上がった。

準決勝リーグで、1日目の筑波大－福岡大、2日目の東女体大－筑波大、3日目の日体大－武庫川女大戦で見応えのある試合が展開された。

筑波大－福岡大戦では、前半で14－5と大差をつけられた福岡大が、富松（佐賀関）の活躍で後半25分には19－18と1点差に追い上げ、筑波大をあわやというところまで追んだが、勝負を捨てない粘りが光った。

第1シードの東女体大と筑波大戦は、接戦が予想されたが、東女体大にいつもの動きがなく、前半はタイであったが、後半は筑波大の大型新人小谷内（水海道二）、稲次（宣真）が決めて主導権を握り、守っては飯田の動きを封じて28－20で勝った。

日体大－武女大戦は、日体大が山田（東海女）のカットイン、桐谷（佼成女）のステップなどでコンスタントに加点し、前半をリードしたが、後半は武女大が日体大の可剣萍（元中国代表）を早目のチェックで守りを固め西村（四天王寺・全日本）のロングで追い上げて17分には逆転、23分には大林（夙川）が決めて23－20として優位に立った。しかし、25分過ぎから急に動きが鈍り25分、26分半に可が決め1点差、武庫川女大に退場が出た直後の29分20秒に、敗色濃かった日体大の望みをつなぐ可のシュートが決まり同点。この折り返しの武庫川女大の攻撃で可の好守備がチャージの反則を誘い、山田が素早くポイントに立ち新井（國學院栃木）につないだ速攻で残り13秒に勝ち越した。

なお、残り少ない時間の中で素早く処理し速攻につなげた山田と、後がない時間のプレッシャーの中で落着いて決めた新井のプレーは賞賛に値するものであった。

3位決定戦は、関東の一角を食おうとする気迫の見られた武庫川女大が、開始5分過ぎから終始先手を取って勝った。

決勝戦は、日体大が開始40秒に桐谷のステップで先制。その後も1点差で先行する展開で、前半は12－10で日体大がリードして折り返しに入った。

後半は、立ち上りに筑波大が稲次、野村（三井）で3連続点で逆転。しかし日体大も11分に稲次が退場時に福西（宣真）のポストからの巧投で再逆転。その後、筑波大が西田（小松市女）のポストなどで追ったが、18分半に稲次で17点目を取った後、日体大のゴールを割れず、その間に、福西のポスト、桐谷のミドル、可のカットインなどで5連続得点して22－17で優勝を手中にした。

大会を振り返って見ると男子は地域格差がせばまっていることが強く感じられた。女子は、上位8校のレベルアップが顕著であり総合選手権での活躍の期待が持てた。

なお、男女共に優秀選手と遜色のない活躍を見せた好選手を本文に記載した。

男子

1回戦

勝者	得点	前半	後半	得点	敗者
早稲田大	27	19－9	8－11	20	近畿大
函館大	26	16－10	10－8	18	中京大
東海大	29	16－10	13－10	20	東和大
大阪経済大	29	16－14	13－12	26	国際武道大
国士館大	33	12－6	21－7	13	福岡教育大
日本大	21	12－4	9－9	13	京都産業大
法政大	27	15－10	12－8	18	同志社大
中部大	40	22－9	18－10	19	東北学院大
筑波大	29	16－5	13－10	15	南山大
桃山学院大	42	24－12	18－8	20	新潟大
日本体育大	40	20－8	20－7	15	仏教大

2回戦

勝者	得点	前半	後半	得点	敗者
福岡大	32	15－4	17－8	12	横浜商科大
大阪教育大	26	12－10	14－11	21	中央大
名城大	32	20－6	12－11	17	東北福祉大
順天堂大	32	17－6	15－8	14	広島大
大阪体育大	45	26－3	19－3	6	北海道大
早稲田大	26	14－11	12－10	21	函館大
大阪経済大	28	13－7	15－11	18	東海大
国士館大	23	14－11	9－11	22	日本大
法政大	25	13－8	12－14	22	中部大
筑波大	24	12－12	12－10	22	桃山学院大
福岡大	29	15－14	14－11	25	日本体育大

スポーツマンのベストコンディションをお約束する、シャンピアホテル。

■料金（税込）
シングルA……7,980円
シングルB……8,180円
ダブル……13,900円
ツイン……13,590円

Shanpia

シャンピアホテル名古屋
〒460 名古屋市中区錦2-20-5代表☎052(203)5858
●交通 地下鉄東山線伏見駅より東へ徒歩5分
地下鉄東山線栄駅より西へ徒歩8分 タクシーは名古屋駅より8分

■料金（税込）
シングル……8,870円
ダブル……15,450円
ツイン……15,450円

シャンピアホテル大阪
〒530 大阪市北区南扇町6-23代表☎06(312)5151
●交通 新幹線新大阪駅からタクシーで10分
大阪空港からタクシーで20分（阪神高速） 大阪駅から扇町まで徒歩12分

■設備のご案内 ●ミーティングルーム●全自動洗濯機・乾燥機設置●VHSビデオ設置
●シャンピアホテル赤坂●シャンピアホテル青山●シャンピアホテル防府●姉妹ホテル KOLON HOTEL 韓国、慶州（キョンジュ市） 東京事務所(03)3586-7571

準決勝リーグ1組

早大・市原のシュート

大阪教育大 27 16－15 11－11 26 名城大

大阪体育大 26 11－7 15－10 17 順天堂大

早稲田大 34 16－13 18－8 21 大阪経済大

法政大 22 12－8 10－9 17 国士館大

早稲田大 26 13－13 13－12 25 国士館大

法政大 29 15－10 14－11 21 大阪経済大

早稲田大 24 14－8 10－10 18 法政大

国士館大 28 16－12 12－10 22 大阪教済大

準決勝リーグ2組

大阪体育大 33 12－9 21－5 14 大阪教育大

筑波大 26 10－10 16－8 18 福岡大

大阪体育大 36 18－8 18－8 16 福岡大

筑波大 34 16－13 18－10 23 大阪教育大

大阪体育大 27 12－11 16－11 23 筑波大

3位決定戦

福岡大 35 16－12 19－13 25 大阪教育大

筑波大 26 15－8 11－7 15 法政大

決勝

大阪体育大 25 13－13 12－8 21 早稲田大

〔早大〕	得
荒木	0
大原	0
中野	1
岩本	8
延命	0
石木	0
五島	2
平田	7
市原	1
江口	2
片山	0
阿部	0
計	21

GK FP 審 竹武・村智

得	〔大体大〕
0	川島
0	四方
4	松原
5	山内
7	森本
3	泉
2	村上
0	福田
0	川崎
2	片山
0	山口
2	松村
25	計

女子

1回戦

東京女子体育大 28 16－7 12－11 18 大阪体育大

中京女大 39 18－7 21－9 16 仁愛女短大

筑波大 41 18－6 23－4 10 沖縄国際大

日体大・新井のシュート

福岡大 33 14－9 19－5 14 東北福祉大

日本体育大 32 13－12 19－7 19 中京大

日本女子体育大 42 20－2 22－3 5 広島大

福岡教育大 20 9－7 11－8 15 東海大

武庫川女子大 53 27－6 26－1 7 北海道女子短大

準決勝リーグ1組

東京女子体育大 28 13－13 15－7 20 中京女大

筑波大 21 14－5 7－14 19 福岡大

筑波大 28 12－12 16－8 20 東京女子体育大

福岡大 22 9－7 13－10 17 中京女大

準決勝リーグ2組

東京女子体育大 29 15－11 14－10 21 福岡大

筑波大 34 16－8 18－10 18 中京女大

日本体育大 30 12－11 18－9 20 福岡教育大

武庫川女子大 22 10－8 12－11 19 日本女子体育大

日本体育大 24 14－9 10－10 19 日本女子体育大

武庫川女子大 29 16－6 13－4 10 福岡教育大

日本体育大 24 13－9 11－14 23 武庫川女子大

日本女子体育大 28 11－13 17－10 23 福岡教育大

3位決定戦

武庫川女子大 26 14－10 12－11 21 日本女子体育大

決勝

日本体育大 22 12－10 10－7 17 筑波大

〔筑波大〕	得
斉藤	0
小前田	0
長手	0
西田	1
野村	4
飯田	0
東田	1
大前	1
浜田	0
稲次	8
小谷内	2
藤平	0
計	17

GK FP 審 徳光・前安

得	〔日体大〕
0	久保田
0	安田
4	山田
4	可剣萍
6	桐谷
5	福西
2	新井
0	沖土井
0	石原
0	小堀
0	増山
1	村上
22	計

駅前モンブランホテル

〒450 名古屋市中村区名駅3－14－1
JR名古屋駅表玄関より徒歩2分
東洋ビル(東洋信託銀行、日本航空)隣
☎052－541－1121
FAX052－541－1140

伏見モンブランホテル

〒460 名古屋市中区栄二丁目2番26号
地下鉄伏見5番出口(科学館方面出口)
徒歩2分(御園座東)
☎052－232－1121
FAX052－204－0256

第12回世界学生選手権大会報告

中沢　重夫

第12回世界学生ハンドボール選手権大会は、近年特に世情の関心の高いロシアのペテルブルグ（旧レニングラード）で開催された。世界の目はロシア国内の事情を見通してか、エントリーは15か国、しかし参加は7か国にとどまった。これに参加する日本代表選手団は、去る12月6日成田発JAL441便でモスクワへ、モスクワから夜行寝台でペテルブルクへ向い、翌朝同市駅着。成田からおよそ26時間余の長い旅。学生たちもロシアという未知な、しかも数々の困難を予想された旅であるだけに、自分の目で世界を見る貴重な経験であったと思う。

大会での成績は結果として最下位。あまり芳しいものとはいえないが、今回も非常に多くの宿題をもって、12月22日JAL440便で全員揃って帰国した。以下、順に今回の参加に関する大要を追ってみる。

●準備

①強化合宿

松井監督、松コーチの担当で検討、計画をなされたが、強化合宿が他の国内スケジュールに追われ2回の合宿と大会直前現地（ロシア）での調整トレーニングの計3回にとどまってしまい、コーチングスタッフも、選手も一番悔いの残るものになったと思う。

いかんともしがたい過密な国内スケジュール。ナショナルをはじめ心ある人は皆、指摘することながら、今回の大会参加も万全な準備ができた状態といえなかったのではないかと大変残念に思う。

②総務、渉外事務処理

綿貫理事が、この大会参加の事務処理を一手に引き受け処理した。事前は大変苦慮した通り、ロシア国内の事情もあることとは思うが大会組織委員との連絡がほとんどつかない。そのため毎回のことながら全日本学連会長（米倉功会長・伊藤忠商事会長）の配慮により同商事のロシア室のTLEXを窓口に現地同社モスクワ事務所、ペテルスブルク事務所の手を患わせ、大会組織委と連絡をとっていただいた。過去、ルーマニアの時もまったく同じ状態におかれたが、今回はもっとひどく、いかにロシアの国内事情の混乱を心配する要因ともなった。この点、商社の世界のネットはすばらしいものがあると大変感心させられた。

ロシア国内の旅行、列車、バス、通訳等のすべての手配を伊藤忠商事の現地事務所がしてくださったことは、この大会参加の困難さを心配しただけに、大会参加行程が円滑に進むことができ大変感謝申し上げる次第である。

ここで特に述べたいのは、チーム構成にマネージャー役員を加えることの必要性である。選手団個々への事前の連絡、参加手続き、旅行計画、持参品準備、旅行中、滞在中のすべての誘導、対外関係へ接触、そしてすべての会計、これらを一手に引き受け、なおかつロシア国内での食料事情を考え、携帯日本食を準備、この恩恵に浴した者は多かった。綿貫理事のマネージャー役は特筆に値する。

③ドクター帯同・渡辺健一医師

世界学生へのドクター帯同は初めてであるが、学生を預る我々役員にとってこれほど安心して大会参加ができたのは初めてであろう。今まで他の国は必ず同行しており、うらやましい限りであったが、自分たちで実際に経験すると、試合中コートでも即対応、病院へも同行、宿舎に帰っても目を離さない等々、絶対に帯同をお願いする必要を痛感した。

④帯同レフェリー／後藤・清水両国際レフェリー

フランス大会以後毎回帯同レフェリーをお願いしてきたが、今回両レフェリーによって最後の詰めを行っていただいたといえる。参加国皆が日本のレフェリーを評価している。後藤氏のオリンピック・レフェリーの存在も大きかったこともいえる。

⑤その他

蒲生晴明ナショナル監督が視察同行。学生のコーチングスタッフにも心強さを感じたであろうし、選手たちも大きな励みになったと思う。次の日本のナショナルを目指す学生選手、いわゆるヒヨコたちの存在を蒲生監督がその目で確め、いかに指導して、明日の日本のハンドボールマンのエリート教育を施すかの資にして欲しいと思うものである。

今回で連続7回目の出場となり、ファイナルセレモニーで、日本チームがテクニック賞、そして松井監督が指導賞（教育賞）の表彰を受けたごとく、技術的には相当高く評価されている。他の国の人は口を揃えて「日本はパワー（力）が足りないという。その通りだと思う。

最後に、世界は東側から西側に風向きが変わり、それを顕著に表したのが、オーストリアがロシアを破り優勝、ハンガリーがルーマニアを破り3位に入ったことである。日本がこれらを肌で感じた大会となったことを述べたい。

また、この大会は次回（第13回）はトルコで1994年12月20日～30日に開催すると発表された。

放課後の負けん気。

放課後になると、わたしのなかにねむっていた元気が目をさます。
ボールをもつと、わたしのなかにかくしていた勝ち気がスックと背すじをのばす。
シュートを決めるとき、わたしのなかの負けん気がパチパチとスパークする。
わたしはこんな自分が大好きなのです。負けん気をありがとう、モルテン。

東京本社　東京都墨田区横川5丁目5-7　〒130　☎03-625-7581(代)
大阪・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフW.G.

県協会だより

宮城県ハンドボール協会

宮城県ハンドボール協会は、昭和23年6月に発足しました。

当時、ハンドボールという競技を知る人はほとんどない時代で、学生時代東京でプレーをした方々が発起人となり、当時の日本協会高嶋理事長を仙台に招き、講習を受けて協会を設立してから早いもので45年の歳月が過ぎました。

その間、国際大会、インターハイ、インカレ、そして日本リーグ等のビッグ大会を開催してまいりました。昭和53年第1回全国高校選抜大会の優勝校、涌谷高校を指導した山崎金夫氏、そして平成2年、インターハイ、福岡国体と制した聖和学園高校の森順一氏をはじめ多くの優秀な指導者のもと、現在一般13チーム、大学8チーム、高専2チーム、高校48チーム、そして中学校15チームが日本協会に登録をしております。

協会組織として、一般、大学、高校、中学の各部門からなる理事会、総務、強化、審判、競技の4部門、その他財務委員会を設置し、年間の協会運営に当っております。

平成4年度は隣県・山形でべにばな国体が開催されました。当県でも全種別の出場を目標としてミニ国体（東北総合体育大会）に臨みましたが、残念ながら3種別の出場となり、本大会でも上位進出はできませんでした。

現在、当県の東北ブロックのレベルは、中学校は2、3番手、高校女子、一般男子・女子は上位ではありますが、高校男子のレベルダウンが著しいので、今後重点強化を図らねばと考えております。

審判部は、審判講習会等により上級審判員養成を年次計画に取り入れており、また、新規D級取得者の増員を積極的に働きかけをしております。

強化、競技部は、前述した通り高校男子のレベルアップ、そして特にジュニア層の普及、強化を考え、今年度は(財)宮城県体育協会のご好意により(財)日本体育協会の事業である、都道府県研修記録事業を企画させていただき、12月16日から4日間、県高体連指定選手男女30名および各高校推薦選手計70名の参加を得て、強化技術指導を計画しております。

なお、ジュニア（中学校）強化に際しても県体協よりの補助事業として1泊2日の基礎強化講習会を中央球界より講師を招き12月に行うこととしております。

平成7年には福島県で国体が開催されます。中期計画の核として福島国体での活躍を期し、隣県あるいは関東遠征等も計画しております。そして、平成13年には当地宮城県での国体も計画されております。

長期展望として、現在、小学校およびスポーツ少年団での普及が皆無であり、早急に手を打たなければならない現状と認識しています。しかし、協会が抱える問題点も多々あり、指導者の高齢化、そして財源不足等があります。

今後、県ハンドボール協会の活性化のため、役員一同努力をし、そして充実、発展のため関係各位の絶大なるご支援、ご協力を心からお願い申し上げ、宮城県協会の平成4年度の活動報告といたします。

（文責・千田）

長野県ハンドボール協会

今回日本ハンドボール協会から機関誌の協会だよりの原稿依頼を受け掲載の機会を得ましたことに感謝を申し上げたいと思います。

長野県ハンドボール協会は、昭和24年に油井孝一郎氏により佐久の地に産声をあげ、創立45年を経過し現在に至るわけですが、その間昭和39年8月、第15回全国高等学校総合体育大会を上田市で開催、また、日本リーグも昭和52年更埴市で開催、その後、佐久市で2回開催、そして昭和62年には、東日本学生ハンドボール選手権大会を、更埴市、上田市、戸倉町で開催するなど本県ハンドボール競技発展の一助になっている。

その間、昭和53年「やまびこ国体」が本県で開催され、総合優勝を成し遂げた快挙が思い出される。登録人数も少なく、大学選手はもとより実業団チームもなく、全選手が地元出身で固めた成年男女、そして少年男女。今にして思えばよくぞ優勝したと回想しつつ協会に参画された諸先輩に心より敬意を表したい。

現在の登録チーム数は、成年男子6、女子5、大学男子2、女子2、高校男子16、女子13、中学男子5、女子5、合計54チームであり、過去には高校総体、国体等で上位進出も度々あったが、ここ十数年は思うような成績を残し得ていないことは残念なことである。

しかし、その中にあって特筆すべきことは、昭和63年北海道で開催された教職員大会で準優勝となり、全日本総合選手権大会の出場権を獲得したことであり、近年にない成果として記憶にとどめたい出来事であった。

また、今年度（平成4年）全国高等学校総合体育大会に於いて、屋代高校女子が、3回戦まで進出、ベスト16はここ数年ないことであり、喜こばしいことでした。中学校での経験者もいなくこつこつと努力した成果であり、彼女らの今後の人生に大きな自信を与えることだろう。

民間の事業としては、昭和62年、上田高校、63年、屋代高校が、日中友好青少年交流大会に参加した。これは両国親善の為に有意義なことであり、スポーツを通しての交流は機会があれば、今後もどんどん行いたいものである。

底辺拡大を唱えて数年が経過しているが、前述のごとく中学校のチーム数は少ない。しかし意欲的な指導者がおり、今後に期待することが大である。本県は4地域に分かれており、中学校のチーム所在地には、高校チームが少なく、また、高校チームの近在には中学校のチームがなく、中学校での経験者が高校で続けることが困難な

状態であり、誠に残念なことである。この問題を解決すれば相当大きな成果を上げ得ることは目に見えているので、今後この点を関係当局に強力に働きかけていく所存である。また、反面、生徒減にともない指導者の採用もままならず、組織の充実に苦慮している現状でもある。

当面の課題としては、少ない指導者で協力しあいながら、効果的な競技力向上を目指すことが大切であろうと思われます。それには、

①中学校、高校の一貫した指導体制の確立。

②競技人口の増大の為、高校登録チームOB、OGチーム結成の働きかけと物心両面にわたる協力体制の確立。

③地元の大学チームのレベルアップへの全面的な協力。

④中央よりの指導者による技術指導研修会（審判講習も含む）の実施。

が急務であると考えています。

本県は今、1998年の冬季オリンピックに向け、長野自動車道、上信越自動車道、北陸新幹線等の整備が急ピッチで行われています。これらが開通すれば地理的条件もぐっと良くなり、競技関係の発展に大きな福音となろうと思われます。

終わりにあたり、日本協会ならびに皆様方の今後のご支援をお願い申し上げ、拙文の筆を置かせていただきます。

県協会だより

山口県ハンドボール協会

本県ハンドボールの発足は、昭和22年、藤田信義・元山口大学教授により始まり、昭和23年3月に星井、柳井が徳山高、下松工高に着任後、同年5月に協会が設立されました。協会発足後45年が経過し、この間、会長5代目、理事長6代目と引き続いで来ました。この間、イベントとして、全中大会2回、高校総体2回、全日本実業団トーナメント2回、全日本総合2回、国民体育大会1回、全日本学生1回、その他国際試合、日本リーグ等数多くの大会をこなして参りました。

お陰様でその都度皆様からのアドバイス等により、ハンドボールの意識も高まり、現在のハンドボール山口の名をかかげることができています。

振り返り、指導者について見ますと、OBでは、藤田、星井、柳井、槙、故人の富樫、青木、横瀬、尾川、現役では、岡村久、藤井康、溝部、桑原、上村、松原、中所、増田、佐倉、山根、坂本、吉兼といった面々。選手としては、近森、藤中、井藤等のオリンピック選手も出すことができました。

次に全国大会等の成績については、高校の部は、下関中央工高、岩国工高、下松工高の全国制覇回数は全国的にも立派と思います。中学校においても、下松中、住吉中、岐陽中、美川中、玖珂中等の全国大会での成績も決して他県に引けは取らないと思います。特にこの中で、第18回国体の高校の部で、徳山高等学校の男女アベック優勝は見事といえると思います。この機を境に、山口県の中学校のチームができて来ました。また、この第18回国体からが、我が国のハンドボールが、11人制から、7人制へと変った記念の年でもあります。

以上が発足から現在迄の推移ですが、今後の問題として、いかに指導者の確保と育成に取り組むか（実技指導者含審判員、事務担当者）、小学生チームの育成、後援団体の態勢組織づくりと、卒業後のハンドボーラーの競技への参加態勢づくりにあると思います。

施設面については、本年9月、徳山市に総合スポーツセンターが完成し、一フロアー2面、廊下をはさんで1面、計3面のコートができ、さっそく県内大会を実施しています。今まで、体育館を使用する場合に移動に困っていましたが、この施設の完成によって好試合が次々と移動しないで続けて見れ、また、ハンドボーラーの勉強にもなり幸せでいます。これを機会に近郷市町村にも一フロアー2面の体育館建設を呼びかけ、大きいイベントを受け、勉強したいと思っています。

また、現在は山陽側中心での片寄った競技人口ですので、小学生対策と同時に山陰側の競技と組織の開発に全力を注ぎたいと思います。

おわりに、やはり事をなすためには、関係者の総力が必要です。スタッフのみの力は知れています。OBから現役、また、教え子の子供が大学、高校と進学しています。これらの父、兄といかに取り組み、組織づくりをするかに力を入れているところです。各中・高校の父母の会が結成されていますが、これらと連携を取り合い、大会等の応援・見学等の手助をし、ハンドボールを好きになってもらうことと思います。

OBとしての仕事はこれしかない、といったところですか……。

今後共いろいろとアドバイスをいただくよう、よろしくお願い致します。

合宿・国内外遠征から
ご家族の旅行まで
なんでも手配致します

明日の勝利の為に
私達が役立ちます
株式会社　エモック・エンタープライズ
〒105 東京都港区西新橋1－17－4 Y・Kビル1F
TEL：03－3507－9777　FAX：03－3507－9771
運輸大臣登録旅行代理店業　第6018
一般旅行業務取扱主任者　田川正明

委員会報告　財務委員会

財団法人日本ハンドボール協会の財務について

常務理事　山下　泉

バブル経済の崩壊により、不況が一段と進み、消費は落ち込み、各企業とも売り上げが低迷、収益は軒並みダウンを余儀なくされています。当協会のリーグに所属する企業や実業団の企業、また、納入取引業者も例外ではありません。

そんな矢先の11月、突然ＪＯＣからの補助金（オリンピックキャンペーン関係）が約一千万円がカットされました。ハンドボールだけでなく他の競技団体も大幅なカットを受けました。景気後退の影響で広告費収入の減少が理由だそうです。いずれにしても当協会としては急遽、緊縮財政による予算の見直しを実施することとなりました。

今回のように年度の途中で状況が変わり、当初の事業計画や予算を実施することが不可能となった場合は、速やかに事業計画、予算の修正を図らざるを得ません。幸にも本年度の主たる行事は大半終了しており大きな変化はありません。しかしこれからの財政を考慮すると現状では、じり貧が目に見えています。

平成4年度の登録チーム数、人数は「別表1」のように増加しています。しかし、事務局の事務量の増加、複雑化で事務費が増加の傾向にあります。また、今後のハンドボール界の発展を考えると男女ナショナルチームの強化は絶対条件です。強化合宿、海外遠征を実施するには十分な財源が必要です。各方面から指摘されている当協会の国際感覚の欠如をなくするには、ＩＨＦ・ＡＨＦに積極的に役員を送り出し、経験と実績を積む必要があります。先般バルセロナ・オリンピックに島田、後藤両審判員が初出場し活躍されましたが日本ハンドボール協会は自信をもって積極的な活動をすることが、アトランタへ向けて再出発する道だろうと思います。

先般、事務局で他の競技団体のいくつかの収入源を調査して見ました。登録金、日本リーグ加盟金、入会金、会費、賛助金等、それぞれ名目こそ違え、当協会と比較し企業チームの納付金は多額であり、一般的にも浅く各方面からの財源確保がされており、収入源は非常に安定し、羨ましささえ感じました。

ここで財団法人について若干説明をさせていただきますと、公益法人の中の一つで、社団法人、学校法人、宗教法人等と同じく、民法34条により『公益に関する社団、又は財団は営利を目的とせざるもの』とし大蔵大臣の認可を受けて設立された法人です。目的、事業、資産、会計等については、『寄付行為』にさだめられ、それによって事業を実施することになっています。特に財務に関しては事業予算に基づいて運営されます。

次に日本ハンドボール協会の主たる収入と支出を記しますと別表2のようになります。

皆様方のご理解を願う為に説明させていただきました。

当協会も安定的な財源確保のために、役員の年会費の新設、日本リーグの加盟金、登録金の見直しも考えなければならないと思います。財団法人は企業のように売上げを伸ばして収益を確保することはできません。ハンドボーラー全員の協力のうえに運営される組織です。皆様のご理解をいただきまして、日本ハンドボール協会の更なる発展を目指したいと存じます。

表2　財団法人日本ハンドボール協会の主たる収入と支出

収　　入	支　　出
1.負担金　(加盟金) 2.補助金　(ＪＯＣ.日体協) 3.委託金等　(ＪＯＣ.スポーツ振興基金等) 4.事業収入　ア、登録金 イ、検定料 ウ、審査料 エ、開催権料 5.寄付金 6.預金利息　(基金、繰越金)	1.加盟金(IHF.AHF.体協) 2.事業費　ア、人件費 イ、運営諸費 ウ、旅費 エ、賞杯費 オ、その他 3.団体大会補助金 4.普及事業費 5.指導者育成事業費 6.審判事業費 7.競技力向上事業費 8.企画事業費 9.広報事業費 10.特別会計 ア、委託事業 (1)ナショナル強化合宿 (2)海外遠征 イ、単独事業 (1)機関紙発行 (2)物品売上等 (3)外国チーム招待等 (4)海外遠征

表1　平成4年度登録数

	一般A		一般B		学生		高専		高校		合計		前年度比較	
	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
登録数　男	357	5655	118	1627	219	3916	32	676	1466	31056				
女	111	1711	6	89	85	1346	0	0	1070	18454				
合計	468	7366	124	1716	305	5262	32	678	2536	49510	3464	64530	+59	+1979
前年度比較　男	+30	+607	+16	+233	+13	+382	±0	±0	−15	+ 72				
女	+ 9	+209	− 2	− 8	+ 7	+162	±0	±0	+ 1	+320				
合計	+39	+817	+14	+225	+20	+544	±0	±0	−14	+392	+59	+1979		

コーチ研修報告①

ドイツ・ハンドボールを学ぶ

田口　隆

今回私は、92年度JOC在外研修員として1年間ドイツにて、ハンドボールを研究するチャンスをいただきました。当初10月の中旬に日本を発つ計画でいましたが、渡航手続等で1か月ほど遅れ、11月15日に日本を発ち、ドイツにやって参りました。

私の研修先はケルン体育大学と、TSU Bayer Dormagen(クラブチーム)でトレーニング方法とハンドボールに対する理論的な考え方等を学ぼうと思っています。あとヨーロッパで行われるイベントに参加し、各国の戦術面での分析もしたいと思っています。

今回のこの研修報告のお便りでは、まず私がお世話になっているTSU Bayer Dormagenについて述べたいと思います。

TSUとはスポーツクラブの意で、Bayerは、クラブのスポンサーで世界的に有名な大きな製薬会社の名前です。そしてDormagenというのがチームが在る地名であります。

Dormagenは私が住んでいるKölnから約25km離れたところに在り、アウトバーンを使えば車で25分ほどのところです。このTSU Bayer Dormagenは全体で約4800名の会員を持ち、いろいろなスポーツを行っています。そのうち330名ほどがハンドボールクラブに籍を置いています。

ハンドボールクラブの中には、ブンデスリーグの1部で活躍している一軍、そしてその下に二軍、三軍、四軍とがあり、あと18歳以下で2歳間隔にA、B、C、D、Eの5チームがあり、そして、その他に8歳以下のMinisと呼ばれるチーム、年齢の高い人たちのチームと計11チームで構成されています。各チームにはそれぞれトレーナー(日本でいう監督)がいて指導にあたっています。ジュニアチームの中には力のある選手もいて、二軍、三軍に混じり、試合に出場することもあります。

私がトレーニングに参加している一軍には、トレーナーの他にコーチとして、主にGKのトレーニングを担当する人がいます。選手としては、今年度は14名と契約が済まされ、そのうちには、今夏行われたバルセロナ・オリンピックに出場した、ドイツ代表Anclreas Thiel, Michael Klemw、スウェーデン代表のRoberf Anclerssonが含まれています。それ以外にもドイツのナショナルチーム経験者が5名います。

また、契約している14名の選手のうち5名は今年、他チームから移籍した選手で、ジュニア層からのクラブ内での強化はもちろんのこと、外部からの補強も積極的に行っているようです。

トレーニングは、月曜日から金曜日の夜に2時間ほど行われ、土、日曜日、そして水曜日に試合が行われます。

ホームでの試合では町をあげての応援があり、1400席ほどのシートが埋めつくされ、それに立見の人もたいへん多く見られ、体育館は日本の体育館程大きくはないにしろぎっしり超満員になります。ハーフタイムには、ホームチームの企画による楽しいアトラクションも行われ、観客席の盛り上がり方も日本にないものがあります。

クラブの概要は以上のようなものです。何分まだドイツに来て間もない為、これから徐々に細かいところまで、勉強していきたいと思います。1年という時間を今までにも増して、大事に有意義なものにしていきたいものです。

バッヂ・メタル・優勝カップ・楯・看板

トロフィー・ネクタイ止・金銀製品・プラスチック製品

各種記念品

シマダ記章株式会社

電話 東京(03)3973－0741(代)

東京都板橋区中丸町49－3

各地の大会結果

東北

第43回秋田県民体育大会

（7月3～5日／大曲仙北圏民体育館）

〈少年男子〉

▼1回戦
湯沢高 32－7 横手高
大曲高 26－19 湯沢稲川高
大曲農高 24－20 秋田高専
羽後高 22－13 秋田南高

▼準決勝
湯沢高 27－18 大曲高
羽後高 36－16 大曲農高

▼決勝
湯沢高 29（11－9、18－12）21 羽後高

〈少年女子〉

▼1回戦
羽後高 28－10 湯沢稲川高

▼準決勝
大曲農高 46－10 羽後高
湯沢高 31－11 秋田和洋高

▼決勝
大曲農高 39（20－7、19－6）13 湯沢高

〈成年男子1部〉

1位 湯沢ク

〈成年男子2部〉

▼1回戦
大曲ク 34－17 稲川ク
秋田ク 36－16 大農OB
秋田マツダ 不戦勝 秋南ク

▼準決勝
羽後ク 28－20 大曲ク
秋田マツダ 35－10 秋田ク

▼決勝
羽後ク 29（10－12、13－11、2－4、4－0）27 秋田マツダ

〈成年女子〉

▼準決勝
全和洋 17－13 AAMSC

▼決勝
大農OG 37（19－4、18－7）11 全和洋

第47回国体宮城県予選会

（7月13～15日／仙台市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
佐沼 34－5 宮水産
東北 15－12 榴ヶ岡
古川工 19－17 仙台三
電子工 13－12 一迫商
仙送志会 30－15 古川
仙台商 28－14 泉館山
宮広瀬 25－15 塩釜
名取北 18－11 仙台
登米 20－19 仙台一
仙台東 28－11 仙台西
仙台向山 25－7 泉松陵

▼2回戦
仙台育英 39－11 佐沼
古川工 24－11 東北
築館 25－11 電子工
仙送志会 35－21 仙台二
古川商 27－15 仙台商
名取北 18－14 宮広瀬
仙台東 20－8 登米
仙台南 17－10 仙台向山

▼3回戦
仙台育英 47－9 古川工
仙送志会 31－15 築館
古川商 22－21 名取北
仙台南 21－13 仙台東

▼準決勝
仙台育英 21－17 仙送志会
古川商 22－14 仙台南

▼決勝
仙台育英 25（10－10、15－14）24 古川商

〈女子〉

▼1回戦
仙台東 29－6 名取北
宮二女 9－7 宮広瀬
明成 28－5 仙台南

▼2回戦
聖和 43－2 仙台東
仙女商 19－17 涌谷
古川女 15－12 登米
宮三女 12－0 泉松陵
宮一女 28－9 宮二女
飯野川 31－9 佐沼
塩釜女 17－5 泉館山
古川商 29－13 明成

▼3回戦
聖和 40－0 仙女商
古川女 18－9 古川女
宮三女 23－6 飯野川
宮一女 23－5 塩釜女

▼準決勝
聖和 22－10 宮三女
古川商 18－13 宮一女

▼決勝
聖和 21（11－8、10－10）18 古川商

第21回東北中学校大会

（8月10～12日／野辺地町立体育館ほか）

〈男子〉

▼予選リーグAブロック
東根一中 19－7 田尻中
東根一中 24－13 湯沢南中
湯沢南中 17－12 田尻中

▼Bブロック
泉中 17－8 羽後中
中田中 19－14 泉中
中田中 16－12 羽後中

▼Cブロック
尾花沢中 20－12 厨川中
尾花沢中 18－12 富田中
富田中 21－17 厨川中

▼Dブロック
高砂中 25－11 見前南町
信夫中 25－17 高砂中
信夫中 24－9 見前南中

▼決勝トーナメント1回戦
東根一中 16－10 信夫中
尾花沢中 18－15 中田中

▼決勝
東根一中 23（9－6、14－5）11 尾花沢中

〈女子〉

▼予選リーグEブロック
中田中 10－4 松園中
東根一中 11－10 中田中
東根一中 18－12 松園中

▼Fブロック
尾花沢中 13－13 西多賀中
郡山一中 23－5 尾花沢中
郡山一中 13－8 西多賀中

▼Gブロック
厨川中 17－8 湯沢北中
二瀬中 18－9 厨川中
二瀬中 25－6 湯沢北中

▼決勝リーグ
二瀬中 11－10 東根一中
郡山一中 15－13 二瀬中
郡山一中 15－11 東根一中

〔順位〕①郡山一中②二瀬中③東根一中

関東

埼玉県高校1年生大会

（8月25～27日／筑波大坂戸高）

〈男子〉

▼予選リーグAブロック
秩父 19－2 富士見
秩父 35－1 浦和学院
富士見 16－2 浦和学院

▼同Bブロック
川口北 16－6 川口
川口北 20－10 羽生第一

羽生第一 10－8 川口
▼同Cブロック
所沢緑ヶ丘 11－3 岩槻北陵
所沢緑ヶ丘 17－4 志木
岩槻北陵 12－3 志木
▼同Dブロック
岩槻 17－10 北本
岩槻 13－13 桶川
桶川 20－8 北本
▼同Eブロック
大宮南 21－10 春日部工
春日部工 10－6 春日部共栄
大宮南 22－2 春日部共栄
▼同Fブロック
宮代 11－3 朝霞西
埼玉栄 20－7 宮代
埼玉栄 17－7 朝霞西
▼同Gブロック
農大三 22－10 大井
農大三 17－2 川越南
川越南 15－5 大井
▼同Hブロック
川口青陵 20－13 草加東
川口青陵 20－8 花咲徳栄
花咲徳栄 22－14 草加東
▼同Iブロック
浦和実 18－5 城西川越
浦和西 12－3 城西川越
浦和実 17－6 浦和西
▼同Jブロック
越谷南 17－8 越谷西
越谷西 15－3 春日部東
越谷西 12－6 春日部東
▼同Kブロック
県坂戸 12－7 上尾東
小松原 13－3 上尾東

小松原 11－10 県坂戸
▼同Lブロック
川口東 23－2 上尾南
川口東 13－4 三郷工
三郷工 12－5 上尾南
▼同Mブロック
浦和南 19－9 八潮
西武台 15－9 浦和南
西武台 16－4 八潮
▼同Nブロック
鴻巣 8－6 久喜北陽
▼同Oブロック
浦和市立 9－9 伊奈学園
▼同Pブロック
朝霞 11－4 城北埼玉
大宮 7－3 城北埼玉
朝霞 13－3 大宮
▼同Qブロック
川口工 14－8 上尾沼南
▼同Rブロック
庄和 10－9 春日部
春日部 12－8 大宮北
庄和 11－6 大宮北
▼同Sブロック
所沢北 40－3 和光
▼同Tブロック
筑波坂戸 19－7 浦和工
▼決勝トーナメント1回戦
埼玉栄 10－9 小松原
川口青陵 23－8 越谷南
浦和実 14－13 大宮南
川口北 18－10 桶川
▼2回戦
浦和学院 24－5 埼玉栄
西武台 11－10 川口工
川口東 28－6 筑波坂戸

川口青陵 13－8 所沢緑ヶ丘
浦和実 26－4 朝霞
所沢北 11－5 鴻巣
農大三 13－5 浦和市立
川口北 11－5 庄和
▼3回戦
浦和学院 22－2 西武台
川口東 15－9 川口青陵
浦和実 16－0 所沢北
農大三 10－7 川口北
▼準決勝
浦和学院 12－9 川口東
浦和実 16－14 農大三
▼順位決定戦
川口青陵 17－11 西武台
川口北 11－9 所沢北
▼7・8位決定戦
西武台 14－12 所沢北
▼5・6位決定戦
川口青陵 14－10 川口北
▼3位決定戦
川口東 20－12 農大三
▼決勝
浦和学院 13 (8－2, 5－5) 7 浦和実
▼B決勝トーナメント1回戦
越谷西 11－6 羽生第一
川越南 20－9 宮代
花咲徳栄 11－10 三郷工
春日部工 14－2 大宮
▼B2回戦
越谷西 16－11 岩槻
久喜北陽 9－7 春日部
上尾沼南 9－7 富士見
浦和南 16－10 県坂戸
川越南 10－8 花咲徳栄

岩槻北陵 11－5 浦和工
浦和西 11－9 伊奈学園
春日部工 31－6 和光
▼B3回戦
越谷西 14－6 久喜北陽
浦和南 13－5 上尾沼南
岩槻北陵 11－9 川越南
浦和西 19－10 春日部工
▼B準決勝
越谷西 19－6 浦和西
浦和西 14－5 岩槻北陵
▼B決勝
浦和西 15－6 越谷西

〈女子〉
▼予選リーグaブロック
川口北 11－6 朝霞
浦和西 18－10 朝霞
浦和西 11－4 川口北
▼同bブロック
春日部東 6－4 浦和市立
春日部共栄 10－1 春日部東
浦和市立 8－0 春日部共栄
▼同cブロック
川口青陵 25－2 草加南
川口青陵 18－12 草加
草加 20－10 草加南
▼同dブロック
浦和南 16－0 大井
小松原 16－9 大井
浦和南 11－6 小松原
▼同eブロック
所沢北 6－5 幸手商
埼玉栄 24－2 所沢北
埼玉栄 39－1 幸手商
▼同fブロック
庄和 9－2 秋草学園

中村荷役運輸株式会社
おかげさまで 創業74年
港湾運送事業・港湾荷役事業・倉庫荷役業・通関業
船舶代理店業・倉庫業・自動車運送取扱業・その他の関連業務
●本社：〒108 東京都港区芝浦2-3-39 TEL03-3451-4161
NAKAMURA STEVEDORES & TRANSPORTATION CO., LTD.

川口女 17－3 庄和
川口女 19－0 秋草学園

▼同gブロック
大宮開成 12－11 上尾南
浦和学院 13－11 大宮開成
浦和学院 12－5 上尾南

▼同hブロック
八潮 23－5 本庄女
八潮 17－3 春日部女
本庄女 10－8 春日部女

▼同iブロック
伊奈学園 23－0 山村国際
伊奈学園 9－3 浦和商
浦和商 8－2 山村国際

▼同jブロック
熊谷女 21－2 大宮南
浦和実 17－5 熊谷女
浦和実 8－1 大宮南

▼同kブロック
西武台 27－3 春日部工
西武台 30－1 吹上
春日部工 6－6 吹上

▼同lブロック
行田女 13－2 大宮北
行田女 12－1 筑波坂戸
筑波坂戸 12－3 大宮北

▼A決勝トーナメント1回戦
浦和西 9－7 浦和南
行田女 11－3 春日部東
埼玉栄 23－8 川口青陵
川口女 12－3 浦和実

▼同2回戦
西武台 23－5 浦和西
伊奈学園 8－5 行田女
埼玉栄 8－6 八潮
川口女 5－5 1PTC0 浦和学院

▼準決勝
西武台 12－0 伊奈学園
埼玉栄 22－4 川口女

▼順位決定戦
浦和西 11－9 行田女
八潮 14－5 浦和学院

▼7・8位決定戦
浦和学院 8－4 行田女

▼5・6位決定戦
八潮 17－7 浦和西

▼3位決定戦
伊奈学園 5－3 川口女

▼決勝
埼玉栄 14（5－3、9－1）4 西武台

▼B決勝トーナメント1回戦
熊谷女 10－7 本庄女
小松原 12－4 浦和市立
大宮開成 19－8 筑波坂戸
川口北 12－3 所沢北

▼同2回戦
熊谷女 15－4 浦和商
小松原 10－6 春日部工
大宮開成 15－10 草加
川口北 16－2 庄和

▼同準決勝
熊谷女 14－10 小松原
川口北 11－4 大宮開成

▼同決勝
川口北 13（6－1、7－2）3 熊谷女

東海

第40回岐阜県高校総体

（8月15、16日／岐阜南高校）

〈男子〉

▼1回戦
加納 21－11 池田
中京商 12－10 可児
海津北 14－11 岐陽
高山工 10－7 岐阜北

▼2回戦
岐阜西工 11－6 加納
岐阜東 16－7 各務原西
海津 12－4 郡上
大垣工 13－8 中京商
海津北 16－14 長良
羽島北 12－10 大垣南
県岐阜商 18－4 益田
市岐阜商 22－3 高山工

▼3回戦
岐阜西工 11－6 岐阜東
大垣工 20－9 海津
海津北 14－11 羽島北
市岐阜商 14－6 県岐阜商

▼準決勝
岐阜西工 20－13 大垣工
市岐阜商 30－7 海津北

▼決勝
市岐阜商 15（6－7、9－3）10 岐阜西工

〈女子〉

▼1回戦
養老女商 22－1 斐太
本巣 18－11 大垣西
羽島北 18－3 大垣南
岐阜北 17－8 海津
県岐阜商 8－7 瑞浪
高山 18－2 各務原西
大垣女子 20－8 長良
富田女子 23－6 池田

▼2回戦
養老女商 26－5 本巣
岐阜北 13－10 羽島北
高山 8－6 県岐阜商
富田女子 23－4 大垣女子

▼3回戦
養老女商 27－8 岐阜北
富田女子 21－6 高山

▼決勝
養老女商 15（7－7、8－6）13 富田女子

第10回松野杯岐阜県高校選手権

（8月14～16日／岐阜南高校）

〈男子〉

▼1回戦
岐阜南 22－12 各務原東
岐阜工 16－10 大垣農
多治見北 16－14 大垣西
斐太 23－10 岐山

▼2回戦
岐阜南 18－11 大垣東
岐阜工 18－2 可児工
多治見北 16－15 中濃西
斐太 20－12 各務原

▼3回戦
岐阜南 22－9 岐阜工
多治見北 12－0 斐太

▼決勝
岐阜南 24（11－4、13－7）11 多治見北

〈女子〉

▼1回戦
大垣北 14－12 岐山

▼2回戦
中津 23－14 大垣北
各務原 14－13 益田
益田南 14－7 各務原東
加納 9－5 不破

▼3回戦
中津 17－10 各務原
加納 9－8 益田南

▼決勝
中津 11（8－4、3－6）10 加納

中国

第19回中国地区高専大会

（7月13日～15日／徳山市体育館）

▼予選リーグA
徳山（山口）16－10 松江（島根）
松江 20－18 津山（岡山）
徳山 32－17 津山

▼予選リーグB
米子（鳥取）17－16 宇部（山口）
呉（広島）16－12 宇部
米子 13－13 呉

▼決勝トーナメント1回戦
徳山 21－13 米子
呉 23－9 松江

▼決勝
徳山 14（11－4、3－8）12 呉

Your Daiwa Staff

ライフプランは暮らしの中でも大きなテーマです。このテーマにトータルにお応えできるのが〈ダイワ〉です。信託もできるべんりな都市銀行として、財産の管理と運用、不動産の売買仲介と有効利用、年金や相続・贈与の設計、ローンのお世話から自動サービス、さらに国際業務と、幅広くバックアップさせていただきます。お客さまとともに明日を創造するBank〈ダイワ〉をぜひご活用ください。

大和銀行

もっと大きな声で
夢を語りあいたいな

夢を語るときの瞳は、
いつもキラキラ輝いています。
夢を、未来を、カタチに変える、
そんな新時代への冒険心を
大同特殊鋼は大切にしたいと思います。
夢を語りあいたい……あなたと。

"With You"

大同特殊鋼

本　社　〒460 名古屋市中区錦1－11－18（興銀ビル）
TEL（052）201－5111
支　社　東　京　／　支　店　大　阪

日本協会だより

平成４年度第２回全国理事

11月21日、於　東京体育館会議室
出席：渡邉副会長、中沢専務理事　他　17名

１．ＪＯＣジュニアオリンピックカップ補助金について
日本協会からの補助金は全国中学生大会と同等の60万円とする。　承認

２．第44回全日本総合選手権大会準備状況報告

３．委員会報告
ア、会計委員会　10月末日現在の収支状況報告
補助金減少対策検討中
イ、国際委員会　ＡＨＦ委員会委員に次の各氏が決定
競技・組織委員会（ＣＯＣ）　井　薫　氏
コーチ・方法委員会（ＣＭＣ）大西　武三　氏
医事委員会（ＭＣ）　西山　逸成　氏
ウ、審判委員会　審判用品価格改訂　承認

以上

平成４年度臨時評議員会

11月28日、於　東興ホテル会議室
出席　日本協会　中沢専務理事、植村常務理事、大野監事、評議員20名　委任状25名

１．本年度の行事についての報告。
２．本年度の財政状況についての報告。
３．平成５、６年度役員選出方法について
（座長　高橋　健夫氏）
審議の結果、平成５、６年度は中沢体制で行くことに決定。
以上の決定に基づき中沢専務理事より新陣容を平成５年２月の第２回評議員会に提案することとした。

12月度常務理事会

12月５日　於　日本協会
出席　中沢　専務理事　他６名

１．臨時評議員会報告
平成５、６年度役員は一部の変更は有り得るが原則として現体制とするとの結論に達した。
２月の定例評議員会で審議のうえ決定する。

２．平成４年度事業予算の削減と平成５年度予算案提出について
ＪＯＣ補助金カットに伴い各事業費予算を一律５％カットする。
平成５年度予算案は対前年第一次補正マイナス５％を目標とする。
各委員会は以上を踏まえて資料を作成12月19日までに事務局に提出することとした。

３．増収対策について
登録金、機関紙、役員年会費、個人賛助金、検定料、リーグ加盟金等の見直しをすることとし次回以降協議することとした。

４．全日本総合選手権大会準備状況報告

５．委員会報告
（ア）強化委員会
（１）男子ナショナルチーム遠征報告
ハーレム、ハンドボールウィーク
（オランダカップ）
１位　オーストリア
２位　ノルウェー
３位　スイス
４位　日本
５位　オランダ
６位　ベルギー
（２）12月度遠征予定
第12回世界学生選手権大会
12．6出発
12.22帰着　サンクト　ペテルブルグ
団長　中沢専務理事　他20名
（イ）普及委員会
ＪＯＣジュニアオリンピックカップについて
各ブロックに対し主管協会より各10万円を補助することに決定

６．読売新聞『日本スポーツ賞』の推薦
男子ナショナルチームキャプテン
橋本　行弘を推薦

以上

NEXT ONE―セノーイズム

限りない可能性に挑戦し、感動を勝ち取っていく―― セノーの仕事もまた、スポーツそのものかもしれない。
妥協のないセノーの"NEXT ONE"にご期待ください。

Senoh®
セノー株式会社
東京都千代田区神田司町2-7
☎03-3292-5411
日本ハンドボール協会検定品製造工場

asics®
ATHLETIC SHOES

Barcelona'92

ゴールに狙いをつけた傾斜角。

踏み付け部のエッジにつけた傾斜が、倒れ込みシュートを打ちやすくしました。

コートは狭く、ゴールポストも小さいハンドボール。厚い防御の壁を突き破ってシュートを決めるのは、簡単なことではありません。わずかな間隙をぬって決める倒れ込みシュートこそ、まさにハンドボールの醍醐味です。スカイハンド®ジャパンα-Sは、アウターソール踏みつけ部のエッジに傾斜をつけることにより、倒れ込みシュートを打ちやすくしました。

インドアのために生まれたスパイラルソールが、すばやい攻撃を支えます。

ハンドボールに要求されるものは、なによりもまずスピード。インドア専用に開発されたラバー製のスパイラルソールがすばやい動きにあわせて威力を発揮します。動きやすく、滑りにくい。しかも、踏み付け部には溝を配し、屈曲性をアップ。攻撃に、防御に、鍛えぬかれたフットワークに磨きがかかります。

品名 **スカイハンド®ジャパンα-S**
品番 **THH711** メーカー希望小売価格 **¥16,000**(消費税抜き)　αGEL
カラー/●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レッド
サイズ/22.5〜29.0㎝

アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

株式会社アシックス
●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。
●®は㈱アシックスの登録商標です。
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)3624-1814(専用)・(03)3624-2221(大代表)

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三二七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成五年一月二十六日 印刷
平成五年二月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)

MIZUNO®
THE WORLD OF SPORTS

がんばれ!ニッポン!
Official Sponsor

攻守を加速する
新戦力ラインアップ。

ウィングゾーン EX-L ¥14,000
16KH-20114 サイズ:23.5〜28.0
ホワイトにネイビー/ゴールド 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂

ウィングゾーン EX-S ¥13,000
16KH-21162 サイズ:23.5〜28.0
ホワイトにレッド/シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂

16OH-202 ¥4,700
検定球
亀甲型 天然皮革2号 HL-2

16OH-203 ¥4,800
検定球
亀甲型 天然皮革3号 HL-3

16OH-212 ¥4,400
準検定球
亀甲型 天然皮革2号 HL-2A

スポーツあげたい、
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

●記載価格は税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は――
「ミズノお客様商品相談センターMUSIC」
東京 TEL (03)3233-7110 大阪 TEL (06)614-8110